# Ⅳ 地域別の方針

「地域別の方針」では、本市を地理的特性や地域的つながりなどから以下の 10 地域に区分し、各地域の現状や課題を整理するとともに、地域の特性を踏まえた都市づくりの方針を示します。

**【基本的な考え方】**

○生活圏域や拠点の分布を考慮し、中学校区を基本とする。

○本庁地域は人口が集積しているため、県道新発田停車場線とＪＲ羽越本線などの地理的特性や地域特性により、本庁北・本庁南・本庁東の３地域に区分する。

地域区分図

# 1. 本庁北地域

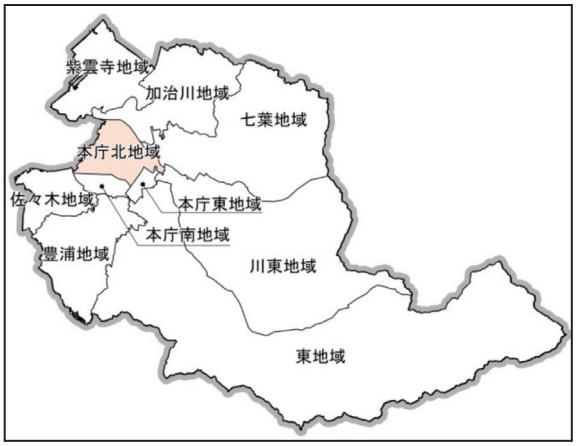
## （1）地域の概況

本庁北地域は、市の西部に位置し、西側は聖籠町に接しており、北側には農地が広がり、集落が分布しています。

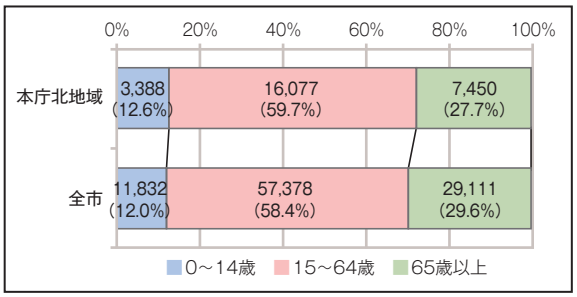
新発田駅を起点とした県道新発田停車場線の沿道には、中心市街地商店街が形成され、北側には、外環状道路である国道７号が東西に通り、その沿道には商業施設が立地しています。また、西側の舟入町や新栄町は、土地区画整理事業＊によって、住宅地や大規模店舗が集積する商業地が計画的に整備されています。

南側は、市役所をはじめ、警察署、家庭裁判所など多くの公共公益施設＊が集積しており、これらに近接して市のシンボルである新発田城が立地しています。

市民アンケートでは、「良好な住環境」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、当地域は市の中心部であることから、交通体系や都市施設について満足度が高くなっています。一方で水辺空間や自然環境の状況については、満足度が全市よりも低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

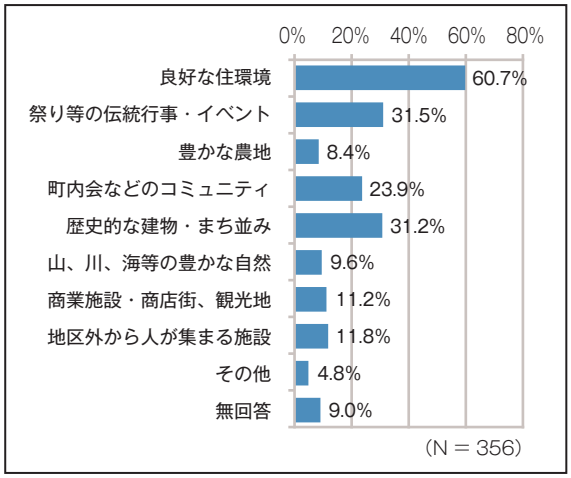
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：26,915 人
総世帯数：10,716 世帯
面　　積：約 1,540 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q　お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 本庁北 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 31.9% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 31.1% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 17.8% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 32.9% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 29.0% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 41.2% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 26.2% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 17.0% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 35.0% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 21.9% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 21.9% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 38.1% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 26.9% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 21.7% | 23.9% |

## （2）現状と課題

【土地利用】

○商店街の賑わいの低下

・県道新発田停車場線沿道等に形成されている商店街は、人口減少や後継者不足等により、空き店舗が増加し魅力が低下しています。市の中心部として魅力の向上が課題となります。

○空き家・空き地の増加

・建築されてから数十年が経過した住宅が多く密集している地区があり、これらの地区は、区画が狭小で狭あい＊な道路も多く、住宅の建て替えが進まず、空き家や空き地が増加する要因となっています。また、住宅が密集していることから、災害時には二次災害の発生も懸念されます。

○住宅地と商業地の活用

・舟入町や新栄町では、昭和 61 年から平成 11 年にかけて土地区画整理事業＊が施行され、大規模商業施設や、街区の整った住宅地が整備されています。大規模商業施設は、国道７号や新発田南バイパス沿道に立地しており、近隣市町村の住民の利用も多いことから、本市の商業の拠点の一つとして、活用が求められます。

【交　　通】

○慢性的な渋滞の発生

・地域内を通過する国道７号は、慢性的な渋滞が発生していることから、渋滞を避け、地域内を通過する車が多くなっています。現在、国道７号は４車線化の整備を進めており、渋滞の緩和が期待されます。

・市街地内で渋滞の発生する箇所は、対策が求められています。

○未整備の都市計画道路＊

・地域の交通ネットワークを形成する［都］本町中田町線や、［都］西園町小舟町線、［都］西園舟入町線などが 20 年以上大部分または全部未着手となっています。

○歩行者や自転車の安全性向上

・市街地内では、歩道がない道路や幅員が狭い道路が存在し、子どもの通学時等、歩行者の通行時に危険があります。

・駅周辺や公共施設が集積する中心市街地及び高校の周辺では自転車利用者が多く、歩行者の安全性が懸念されます。また、自転車と自動車の混在による事故も懸念されます。

【都市施設】

○下水道の未整備

・密集した市街地である緑町の一部や新富町などで下水道が未整備となっており、生活環境や、河川の水質等の自然環境への配慮が必要です。

○「歴史のみち＊」の整備促進

・新発田城址公園から清水園や新発田駅に至る「歴史のみち」は、更なる周辺施設との連携によるまちなかの回遊性の向上が求められます。

【都市環境】

○浸水・冠水への対策

・北側の地域は、豪雨時の浸水想定区域＊になっており、安全性の向上が求められます。また、南側の市街地では、大雨の際に道路の冠水が発生しています。

○新発田城周辺の魅力向上

・市のシンボルである新発田城の活用や、周辺地域と一体となった魅力の向上が求められています。

ヨリネスしばた

## （3）地域づくりの方針

### ●多様な機能が集積する都市拠点の形成

・南側の市街地部分は都市拠点であり、多様な機能が立地しています。特に県道新発田停車場線周辺には、病院や商店街、金融、行政等、多くの公共公益施設＊が立地しており、今後も都市の核として、多様な都市機能の集積や維持を図るとともに、市街地再開発等による整備を検討します。

### ●利便性が高く魅力的な商業地の維持

・県道新発田停車場線沿道の商店街は、空き店舗や空き地等の有効活用や賑わいの創出により、市の中心部として商店街の活性化や魅力の再生を図ります。

・新栄町や舟入町周辺は、計画的に整備された商業地としての機能を維持し、市外からも利用しやすい商業地を形成します。

### ●中心部の魅力を活かした暮らしやすい住宅地の形成

・県道新発田停車場線周辺の住宅地は、駅や市役所、商業施設などの都市機能が充実した、特に利便性の高い地区として、魅力的な住宅地を形成します。住宅密集地の狭あい＊な街区や道路は、その解消を促進し、安全で魅力的な住宅地の形成を推進します。また、空き家・空き地の活用を促進し、賑わいのある住宅地を形成します。

・舟入町や新栄町等の住宅地は、商業施設に近接する利便性や、計画的に整備された住環境を維持します。

・緑町の一部や新富町周辺では、未整備となっている下水道の整備を推進し、住環境の向上を図ります。

### ●安全な都市基盤＊の形成

・［都］本町中田町線は、市街地と紫雲寺地域を結ぶ重要な路線であり、整備を検討するとともに、地域の道路状況を考慮し、市道新発田外ヶ輪線を有効活用した、一部区間の廃止を検討します。

・［都］御幸町中央町線は、周辺の住宅への影響が大きいため、一部重複している県道新発田紫雲寺線への路線変更を検討します。

・［都］西園舟入線は、中環状道路の完成に伴う費用対効果等を踏まえて、一部区間の廃止を検討します。

・豪雨時の浸水想定区域＊、道路冠水が発生する地区では、被害の抑制と解消に向け、河川改修を推進し、安全性向上を図ります。

・市街地内で渋滞の発生する箇所は、渋滞対策について関係機関とともに検討を進めます。

### ●安全な歩行及び自転車走行環境の形成

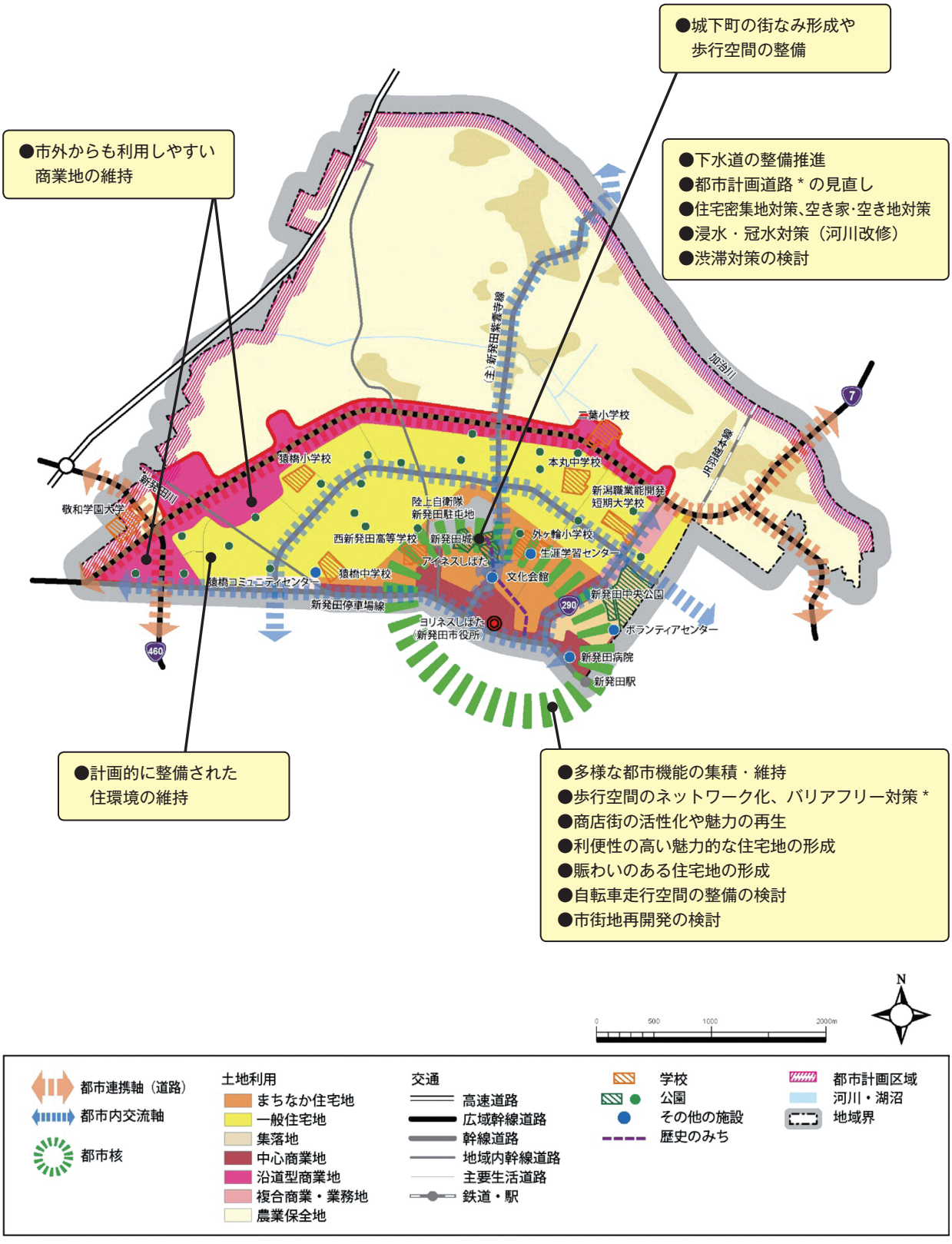
・商店街や市役所などの公共施設が集積する地区は、歩行空間のネットワーク化とバリアフリー対策＊を推進します。

・新発田駅周辺等の自転車の通行が多い地区では、快適で安全な自転車走行空間の整備を検討します。

### ●城下町の魅力の創出・活用

・市のシンボルである新発田城は、周辺と一体となった城下町の街なみの形成や歩行空間の整備を促進し、魅力の向上を図ります。

## （4）地域づくりの方針図


●城下町の街なみ形成や
歩行空間の整備
●市外からも利用しやすい
商業地の維持
●下水道の整備推進
●都市計画道路＊の見直し
●住宅密集地対策、空き家・空き地対策
●浸水・冠水対策（河川改修）
●渋滞対策の検討
●計画的に整備された
住環境の維持
●多様な都市機能の集積・維持
●歩行空間のネットワーク化、バリアフリー対策＊
●商店街の活性化や魅力の再生
●利便性の高い魅力的な住宅地の形成
●賑わいのある住宅地の形成
●自転車走行空間の整備の検討
●市街地再開発の検討
(主)新発田紫雲寺線
加治川
JR羽越本線
三葉小学校
本丸中学校
猿橋小学校
新潟職業能開発
短期大学校
敬和学園大学
新発田川
陸上自衛隊
新発田駐屯地
西新発田高等学校
新発田城
外ヶ輪小学校
生涯学習センター
アイネスしばた
猿橋コミュニティセンター
猿橋中学校
文化会館
新発田中央公園
新発田停車場線
ヨリネスしばた
(新発田市役所)
ボランティアセンター
新発田病院
新発田駅
460
290
7
N
0
500
1000
2000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
都市核
土地利用
まちなか住宅地
一般住宅地
集落地
中心商業地
沿道型商業地
複合商業・業務地
農業保全地
交通
高速道路
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
主要生活道路
鉄道・駅
学校
公園
その他の施設
歴史のみち
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 2. 本庁南地域

## （1）地域の概況

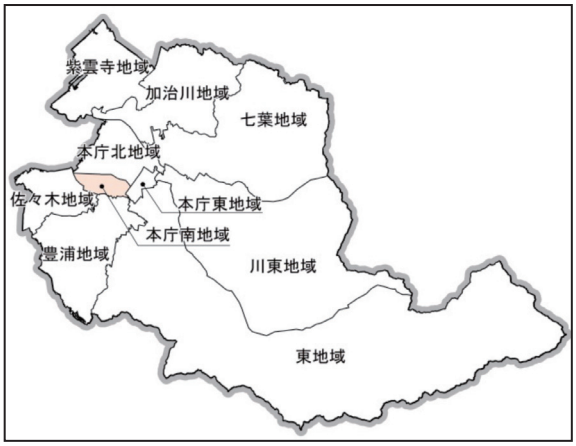
本庁南地域は、市の西部に位置しています。東側に新発田駅、南側には西新発田駅が立地し、それぞれ駅を中心として商業地や住宅地が形成されており、地域の大半が市街化区域＊に指定されています。

新発田駅を起点とした県道新発田停車場線の沿道には、中心市街地商店街が形成され、その背後地には住宅が立地しています。

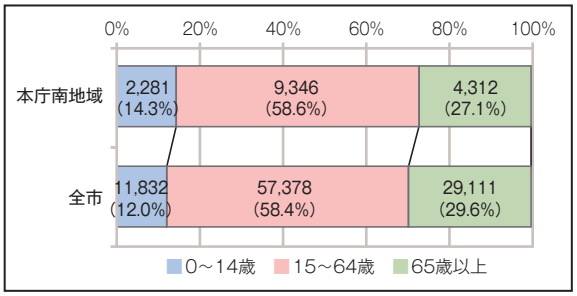
都市拠点の一部であり、商業施設のほか、駅前複合施設「イクネスしばた」や診療所などの公共公益施設＊が立地しています。また、大栄町には江戸時代につくられた清水園や足軽長屋などの歴史資源が残されています。

西新発田駅周辺では、土地区画整理事業＊や新発田南バイパス整備により新しい住宅地や商業施設が立地しています。

市民アンケートでは、「良好な住環境」や「祭り等の伝統行事・イベント」を地域の特性や誇りと感じている市民が多くいます。現状の満足度では、鉄道やバスの利用のしやすさや子どもの遊び場の整備で、全市と比較し満足度が高くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

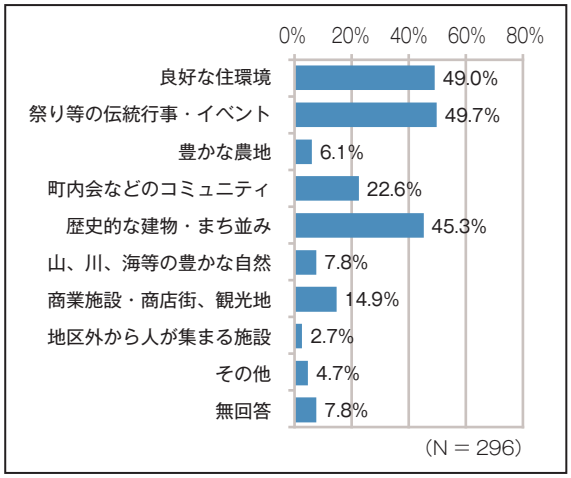
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：15,939 人
総世帯数：6,116 世帯
面　　積：約 460 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 本庁南 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 26.4% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 29.4% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 11.9% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 21.6% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 16.2% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 40.2% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 21.3% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 18.9% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 26.8% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 19.6% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 18.3% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 24.0% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 25.0% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 23.4% | 23.9% |

## （2）現状と課題

【土地利用】

○商店街の賑わいの低下

・県道新発田停車場線沿道等に形成されている商店街は、人口減少や後継者不足等により、空き店舗が増加し魅力が低下しています。市の中心部として魅力の向上が課題となります。

○西新発田駅を中心とした商業地の形成

・大規模商業施設が立地する西新発田駅周辺や新発田南バイパス沿道は、近隣市町村からの利用も多いことから、本市の商業の拠点の一つとなっています。

○狭あいな街区

・西新発田駅周辺や富塚町では、街区の整った住宅が整備され、良好な住環境が形成されています。一方で、新発田駅周辺や大栄町、御幸町などでは、狭あいで不整形な街区も存在し、利便性が悪く、災害時には二次災害の恐れもあることから改善が求められます。

【交　　通】

○骨格となる道路の整備

・平成 25 年に荒町バイパス、平成 26 年に五十公野バイパスが完成したことにより、市街地内の通過交通 * が減少し、豊浦工業団地や山崎工業団地へのアクセス性の向上が図られています。一方で、新発田南バイパスの富塚町周辺など、大規模店舗の周辺では、買い物客等による混雑も発生しています。

○未整備の都市計画道路 *

・［都］御幸町中央町線や［都］富塚町中曽根町線などは、20 年以上未着手の状態となっているため、今後の方針について検討が求められます。

○歩行者や自転車の安全性向上

・市街地内では、歩道がない道路や幅員が狭い道路が存在し、子どもの通学等、歩行者の通行時に危険があります。

・新発田駅周辺、公共施設の集積する中心市街地や高校の周辺では、自転車利用者が多く、歩行者の安全性が懸念されます。また、自転車と自動車の混在による事故も懸念されます。

【都市施設】

○公園の適切な維持管理

・地域内には大規模な公園はないものの、街区内に小規模な公園が分布しています。公園は、災害時の避難場所ともなるため、適切な維持管理が求められます。

○公共施設の活用

・図書館やこどもセンター、キッチンスタジオを備えた駅前複合施設「イクネスしばた」は、まちなかの拠点の一つとしての活用が求められます。

【都市環境】

○「水のみち *」、「歴史のみち *」の整備

・地域内を流れる新発田川沿いの「水のみち」や、新発田城址公園から清水園や新発田駅に至る「歴史のみち」の整備により、まちなかの回遊性向上が求められます。

○清水園や寺町などの歴史資源の分布

・清水園、足軽長屋や蔵春閣などの歴史的な資源が分布する大栄町や諏訪町は、これらを活用した地域全体の魅力を高める取組が必要です。

イクネスしばた

蔵春閣

撮影：写真家　岩崎 和雄氏

## （3）地域づくりの方針

### ●多様な機能が集積する都市拠点の形成

・地域内のほとんどは都市拠点であり、多様な機能が立地しています。特に県道新発田停車場線周辺には、病院や商店街、金融、行政等、多くの公共公益施設＊が立地しており、今後も都市の核として、多様な都市機能の集積や維持を図るとともに、市街地再開発等による整備を検討します。

・西新発田駅周辺は、商業を中心とした都市機能を集積し、利便性の高い都市の核を形成します。

### ●利便性が高く魅力的な商業地の維持

・県道新発田停車場線沿道の商店街は、空き店舗や空き地等の有効活用や賑わいの創出により、市の中心部として商店街の活性化や魅力の再生を図ります。

・西新発田駅周辺や新発田南バイパス沿道に立地する大規模商業施設周辺では、市外からも利用しやすい商業地を集積・維持を図ります。

### ●利便性を活かした暮らしやすい住宅地の形成

・県道新発田停車場線周辺の住宅地は、新発田駅や市役所、商業施設などの都市機能が充実した、特に利便性の高い地区として、魅力的な住宅地を形成します。住宅密集地の狭あい＊な街区や道路は、その解消を検討し、安全で魅力的な住宅地の形成を推進します。また、空き家・空き地の活用を促進し、賑わいのある住宅地を形成します。

・西新発田駅周辺の住宅地は、商業施設に近接する利便性を活かし、基盤の整った良好な住環境を維持します。

### ●新たな都市基盤＊の形成

・［都］富塚町中曽根町線は、富塚町周辺の新しい市街地を形成する道路であり、整備の推進を図ります。

・［都］御幸町中央町線は、周辺の住宅や歴史的景観資源への影響が大きいことから、一部区間の廃止と既存の市道活用を検討します。

### ●安全な歩行及び自転車走行環境の形成

・商店街や市役所などの公共施設の集積する地区は、歩行空間のネットワーク化とバリアフリー対策＊を推進します。

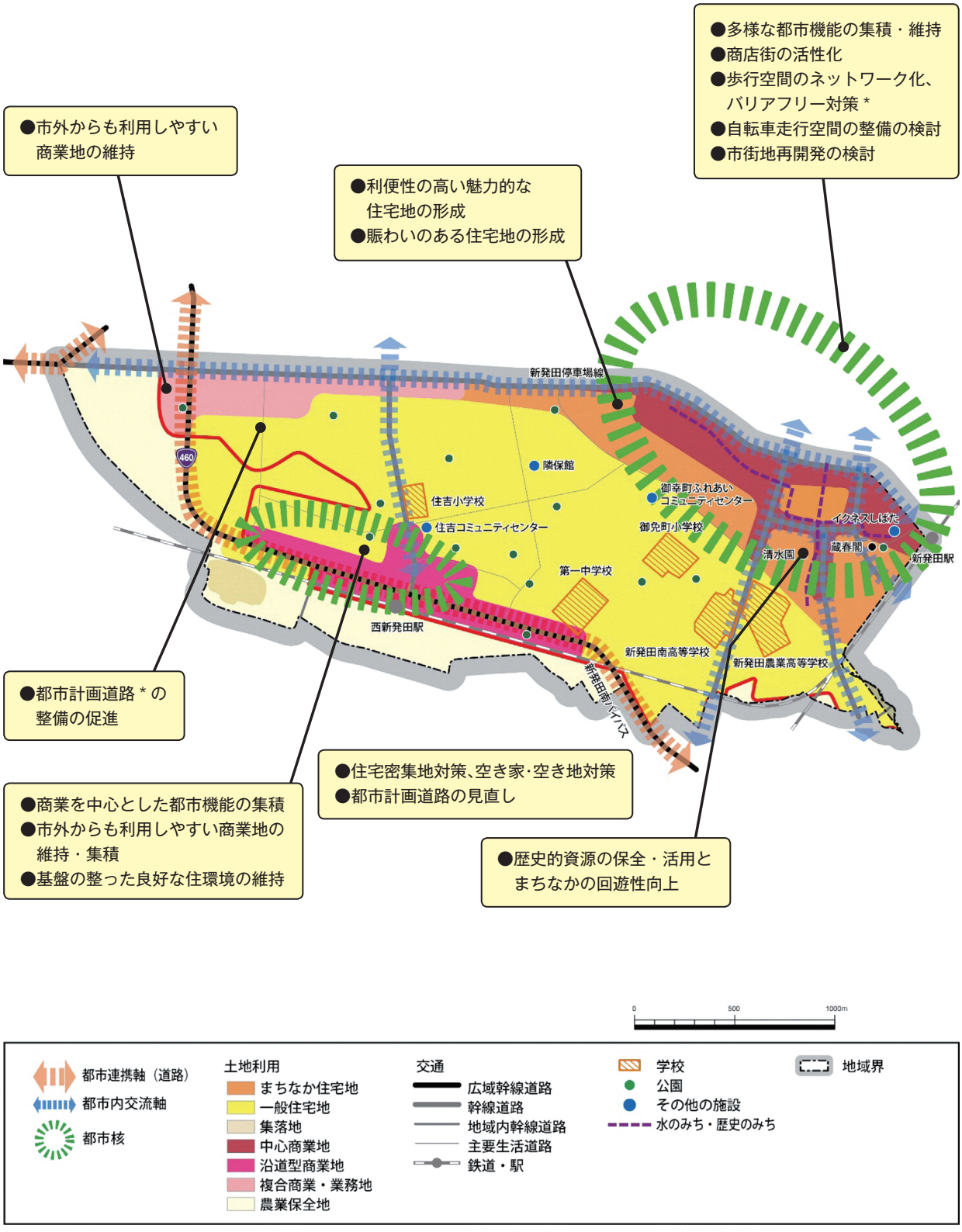
・新発田駅周辺等の自転車の通行が多い地区では、快適で安全な自転車走行空間の整備を検討します。

### ●歴史的な街なみの保全・活用

・清水園、足軽長屋や蔵春閣などの歴史的資源の保全・活用を図り、地域の魅力向上を図ります。

・歴史資源をネットワークで結ぶ「水のみち＊」や「歴史のみち＊」の整備、機能の充実を推進し、まちなかの回遊性向上を図ります。

## （4）地域づくりの方針図


●多様な都市機能の集積・維持
●商店街の活性化
●歩行空間のネットワーク化、バリアフリー対策 *
●自転車走行空間の整備の検討
●市街地再開発の検討
●市外からも利用しやすい商業地の維持
●利便性の高い魅力的な住宅地の形成
●賑わいのある住宅地の形成
新発田停車場線
460
隣保館
住吉小学校
住吉コミュニティセンター
御幸町ふれあいコミュニティセンター
御免町小学校
イクネスしばた
蔵春閣
清水園
新発田駅
第一中学校
西新発田駅
新発田南高等学校
新発田農業高等学校
新発田南バイパス
●都市計画道路 * の整備の促進
●住宅密集地対策、空き家・空き地対策
●都市計画道路の見直し
●商業を中心とした都市機能の集積
●市外からも利用しやすい商業地の維持・集積
●基盤の整った良好な住環境の維持
●歴史的資源の保全・活用とまちなかの回遊性向上
0
500
1000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
都市核
土地利用
まちなか住宅地
一般住宅地
集落地
中心商業地
沿道型商業地
複合商業・業務地
農業保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
主要生活道路
鉄道・駅
学校
公園
その他の施設
水のみち・歴史のみち
地域界

# 3. 本庁東地域

## （1）地域の概況

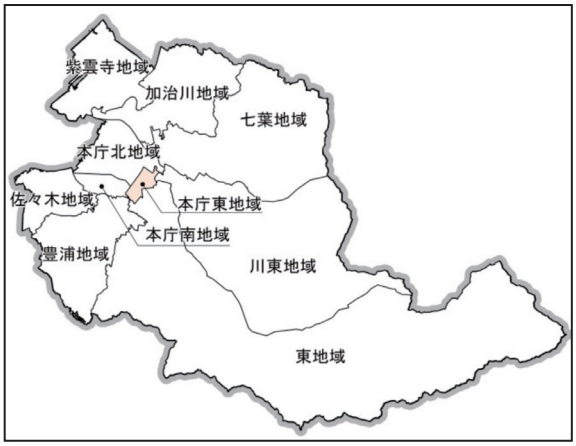
本庁東地域は、新発田駅の東側に位置しています。北部の島潟や板敷周辺の農地を除く大部分が市街化区域＊であり、住居系市街地が広がっています。

新発田駅周辺は土地区画整理事業＊により、北部の東新町周辺は民間開発により、住宅地が形成されています。

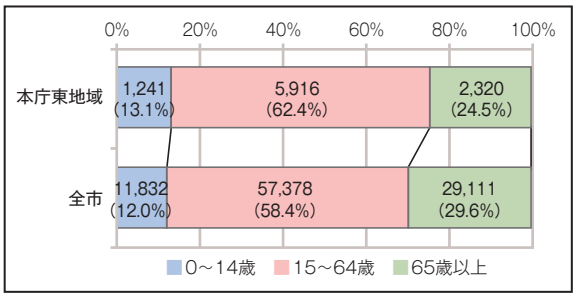
地域内では、［都］西新発田五十公野線や、［都］五十公野公園荒町線が近年整備されました。

地域内には大きな公園や公共施設などはないものの、旧赤谷線サイクリングロードが整備されています。また、県立新発田病院や新発田中央公園、五十公野公園が近接しています。

市民アンケートでは、「良好な住環境」を地域の特性や誇りと感じている市民が多くいます。現状の満足度では、ほとんどの項目で全市と比較してほぼ同程度の満足度か、わずかに全市より低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

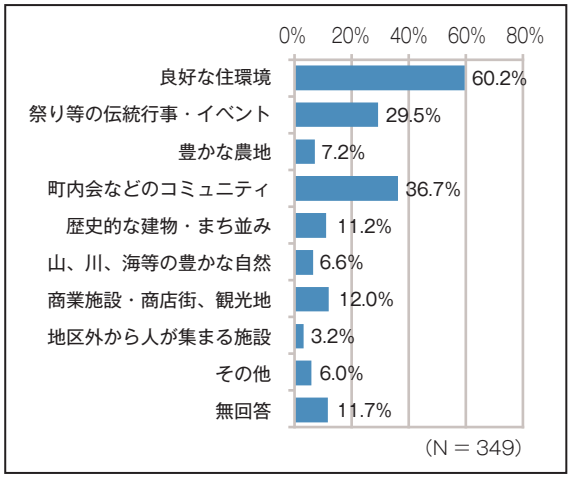
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：9,477 人
総世帯数：3,695 世帯
面　　積：約 270 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 本庁東 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 26.7% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 31.3% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 16.8% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 19.9% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 17.1% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 11.1% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 15.1% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 13.6% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 23.3% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 17.9% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 17.9% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 26.7% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 21.6% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 16.5% | 23.9% |

## （2）現状と課題

**【土地利用】**

**○良好な住宅地の形成**

・豊町周辺は、遊歩道なども整備された良好な住宅地が形成されています。東新町周辺は、［都］西新発田五十公野線や［都］島潟荒町線が整備され、幹線道路＊へのアクセス性が向上しています。また、東新町では、新しい住宅地の開発が進行しています。

**【交　　通】**

**○都市計画道路＊の整備**

・［都］西新発田五十公野線や［都］五十公野公園荒町線、［都］島潟荒町線、新発田南バイパスなどの骨格道路の整備により、交通利便性が向上しています。

**○歩行者の安全性向上**

・東新町では、街路整備や宅地開発などにより交通量も増加しており、住宅地内での歩行者の安全性の向上が求められます。

**○新発田駅東側の利便性向上**

・新発田駅の東側では、新たに整備された交通広場を活用した利便性の向上が求められます。

**【都市施設】**

**○既存施設の有効活用**

・五十公野公園と新発田中央公園の２つの大規模公園と隣接した地域であり、これらの公園と一体となった緑の充実や確保が求められます。

**○下水道の未整備**

・新たに住宅地が整備されている東新町などで下水道が未整備となっています。

**○避難困難者の対策**

・地域の中央部に避難困難区域が存在しており、防災機能を有した東豊コミュニティ防災センターの活用が求められます。

**【都市環境】**

**○浸水・冠水への対策**

・北側の地域は、豪雨時の浸水想定区域＊になっており、安全性の向上が求められます。また、新発田駅周辺では、大雨の際に道路冠水が発生しています。

**○山並みの眺望景観の保全**

・地域の南側には五十公野山や二王子岳などの山並みを眺望することができ、これらと調和した景観の保全が求められます。

駅東交通広場

西新発田五十公野線

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性が高く、基盤の整った住宅地の形成

・新発田駅の東側に広がる住宅地は、公共施設や商業施設、診療所などの都市機能が集積した利便性の高い良好な住環境の維持を図ります。

・東新町周辺では、下水道の整備を推進し、住環境の向上を図ります。また、交通環境に配慮し、安全なまちを形成します。

### ●安全な歩行空間の確保

・新発田駅周辺は、歩行空間のバリアフリー対策＊や防犯灯の設置を推進し、安全な歩行空間の維持を図ります。

### ●安全な都市基盤＊や防災体制づくり

・避難困難者の解消と復旧活動の拠点となる東豊コミュニティ防災センターを適切に活用し、東豊地区における指定避難所及び指定緊急避難場所を適切に構築し、災害時の避難体制を充実します。

・豪雨時の浸水想定区域＊、道路冠水が発生する地区では、被害の抑制と解消に向け、河川改修を推進し、安全性向上を図ります。

### ●自然環境や二王子岳などを望む眺望景観の保全

・地域の北部に広がる農地は、保全を図ります。

・地域の南東方面には、二王子岳などの優れた眺望景観が広がっており、これらと調和した景観の保全を図ります。

### ●駅東交通広場を活用した交通利便性向上

・新たに整備された駅東交通広場は、市民との協働＊により、広場の活用や交通利便性の向上に向けた方策について検討します。

### ●隣接地域との連携による利便性向上

・新発田駅や県道新発田津川線周辺は、隣接地域と連携し、都市機能が集積した利便性の高い都市拠点を形成します。

・身近な公園を適正に維持管理し、隣接地域の五十公野公園や新発田中央公園と連携した緑の創出を図ります。

## （4）地域づくりの方針図

●下水道整備の促進
●安全な歩行空間の形成
●駅東交通広場の活用促進
7
あやめの湯
新発田商業高等学校
東豊小学校
新発田駅
東豊コミュニティ防災センター
新発田高等学校
●利便性を活かした良好な住環境の維持
●農地の保全
●景観の保全
●利便性の高い都市拠点の形成
●身近な公園の維持管理
●避難所及び避難場所の適切な構築
●浸水対策（河川改修）
N
0
500
1000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
土地利用
一般住宅地
郊外住宅地
集落地
農業保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
主要生活道路
鉄道・駅
歩道・自転車道
学校
公園
その他の施設
都市計画区域
地域界

# 4. 東地域

## （1）地域の概況

東地域は市の南東部に位置し、北側は市の中心部である本庁地域と接しています。地域の東側には飯豊山系の山々が広がり、地域の大部分は山地となっています。

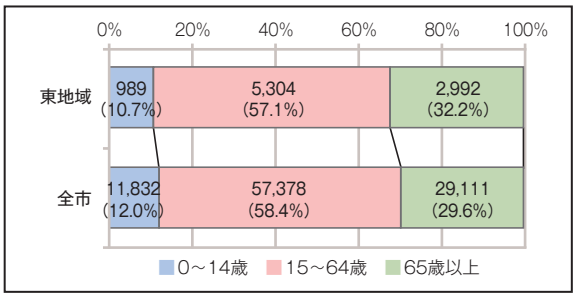
本庁地域に隣接する五十公野地区は、多くの部分が市街化区域＊に指定され、県道新発田津川線周辺には、住居系の市街地が形成されています。また、東小学校や東中学校、コミュニティセンター、五十公野公園などの公共公益施設＊が集積しています。

江戸時代に会津街道であった県道新発田津川線が市中心部から南東方向に延びており、阿賀町に接続しています。その沿道には米倉や赤谷などの集落が立地しています。また、阿賀野市や五泉市方面に至る国道 290 号沿道にも集落が形成されています。

昭和 59 年に赤谷線が廃止されて以降、地域内に鉄道はなく、新潟交通観光バスによる路線バスが運行しています。

市民アンケートでは、「良好な住環境」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、多くの項目で全市より満足度が高くなっていますが、鉄道やバスの利用のしやすさについては、満足度が低くなっています。

位置図




年齢３区分別人口割合

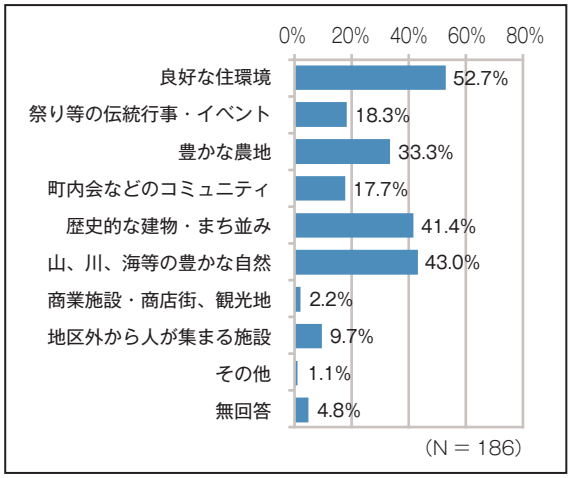
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：9,285 人
総世帯数：2,943 世帯
面　　積：約 21,630 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 東 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 36.6% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 34.1% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 28.0% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 28.0% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 19.4% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 15.6% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 10.2% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 22.6% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 52.2% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 33.9% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 19.4% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 27.4% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 51.9% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 37.7% | 23.9% |

## （2）現状と課題

**【土地利用】**

○生活サービス＊施設の点在

・五十公野地区の県道新発田津川線沿道は近隣商業地域に指定されているものの、市民が日常的に利用するサービス施設は少ない状況です。一方で［都］諏訪町五十公野線沿道などに、サービス施設が点在しています。

○住宅と工場の隣接

・地域内には山崎工業団地が立地しており、周辺の住宅との間には公園が設置され、周辺環境との調和が図られています。一方で、天ノ原周辺では住宅と工場が隣接しており、良好な住環境の形成が必要です。

○集落機能の維持

・地域内には農村集落が点在していますが、人口減少や高齢化の影響により、集落機能の維持が課題となっています。

**【交　　通】**

○骨格となる道路の整備

・県道八幡新田島潟線は、外環状道路の一部であり国道７号から五十公野公園に接続する重要な道路となっています。

○集落地での生活環境を維持する交通網の整備・充実

・地域内には新潟交通観光バスによる路線バスが運行されていますが、山間部では高齢化が進んでいることや、バス停まで距離が遠い集落が存在するなど、地域住民の移動手段の確保が課題となっています。

**【都市施設】**

○五十公野公園などの既存施設の有効活用

・五十公野地区には、学校やコミュニティセンター、公園などの公共施設が集積しています。また、五十公野公園には陸上競技場などスポーツ施設があるほか、あやめまつりなど多くのイベントが開催されており、当市の観光・レクリエーションの場となっています。

**【都市環境】**

○身近な災害への対策

・五十公野山の山裾と東部山間地には、土砂災害警戒区域＊が指定されており、土砂災害の発生に備えた対策が求められます。

・加治川沿岸地域の一部は、豪雨時の浸水想定区域＊となっており、安全性の向上が求められます。

○人口減少に対応した集落景観の保全

・米倉や赤谷では、市内でも特に人口減少や高齢化が進んでおり、農業従事者の減少による耕作放棄地の増加が懸念され、集落景観の保全についても、配慮が必要です。

旧赤谷線のサイクリングロード

## （3）地域づくりの方針

### ●中心市街地に隣接した利便性の高い地域拠点の形成

・五十公野地区は市中心部に隣接する利点を活かし、公共施設の集積を維持し、今後も利便性の高い地域拠点としての機能を維持します。

・五十公野地区と周辺に分布する集落地とのネットワークを強化し、周辺集落地での生活環境の維持を図ります。

・地域内に点在する農村集落は、集落機能の維持のための取組を検討します。

### ●自然と調和した良好な住環境形成

・五十公野周辺の住宅地は、市街地への交通利便性、五十公野山の山林や農地などの周辺の自然環境を活かし、良好な住環境を維持します。

・住宅と工場の隣接する天ノ原周辺は、居住環境に配慮した土地利用を推進します。

### ●公園やダムなどの既存施設の活用と維持管理

・五十公野公園の陸上競技場、テニスコート、野球場等、市全体の総合運動拠点として維持管理を推進します。

・五十公野公園や旧赤谷線サイクリングロードなどのレクリエーション施設や、内の倉ダムなどの既存施設を活用し、地域の賑わいの創出を図ります。

### ●周辺環境に配慮した産業拠点の形成

・山崎工業団地は、産業活動の拠点となる地区として、今後も周辺の住環境に配慮した土地利用の維持に努めます。

### ●人口減少・高齢化に対応した移動手段の確保

・集落地での日常生活を支える移動手段を確保するため、住民との協働＊によって地域に応じた公共交通の検討を進め、集落地と地域拠点や市中心部を結ぶネットワークの確保を図ります。

### ●会津街道沿道の歴史・文化の保全・活用

・五十公野御茶屋など、地域に残されている歴史文化資源を保全し、活用することで地域の魅力向上を図ります。

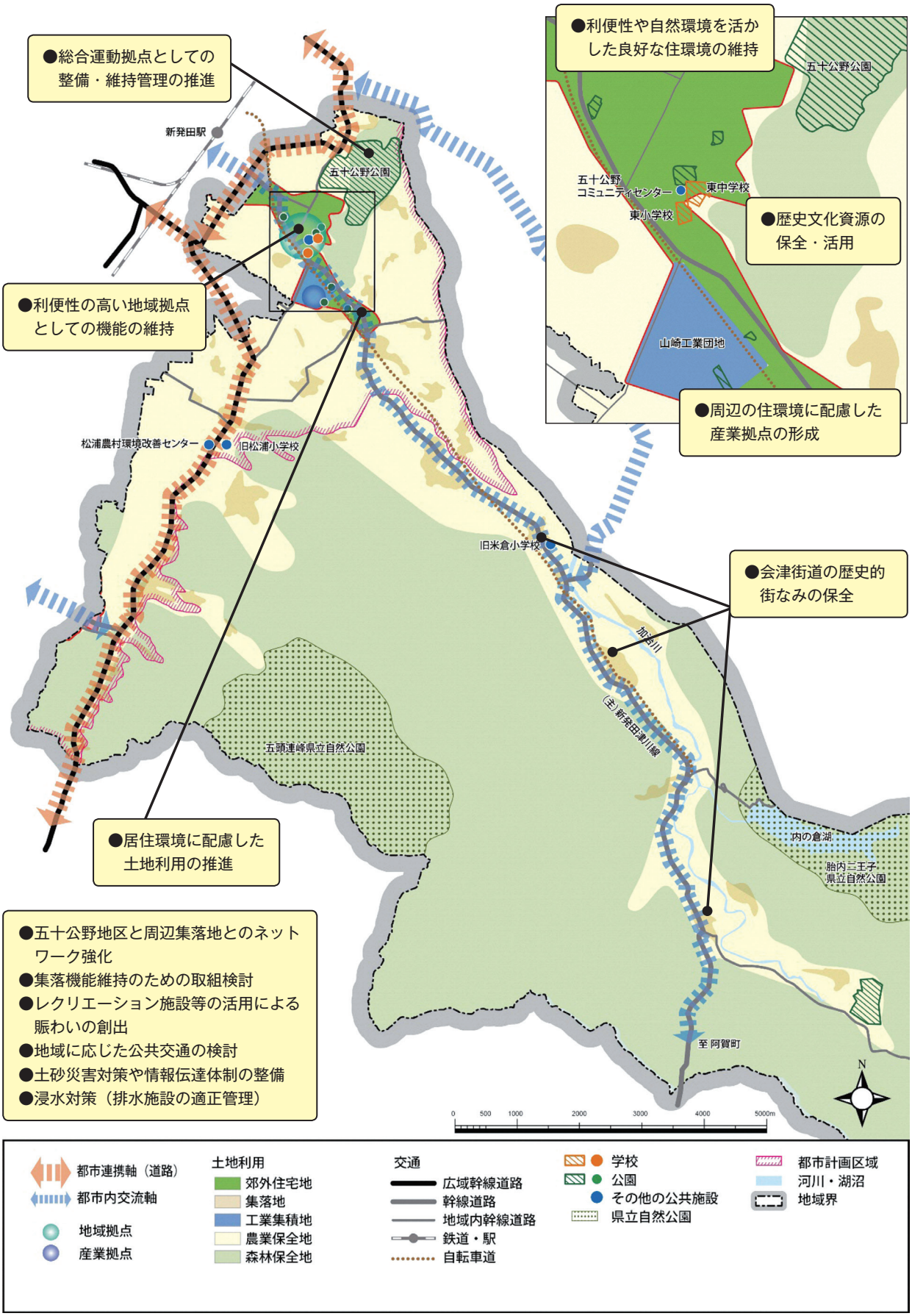
・会津街道沿道は、歴史的街なみの保全とともに、周辺の自然環境との調和を図ります。

### ●土砂災害等に備えた安全な都市基盤＊や防災体制づくり

・五十公野山の山裾は、土砂災害対策を推進し、地域住民の安全性向上を図ります。また、東部の山間地においても、ハザードマップ＊、緊急告知ＦＭラジオ、新発田あんしんメールなどあらゆる情報伝達手段を活用し、計画的な体制整備を図ります。

・豪雨時の浸水想定区域＊では、被害の抑制と解消に向け、排水施設を適正に維持管理し、安全性確保を図ります。

## （4）地域づくりの方針図


●総合運動拠点としての整備・維持管理の推進
●利便性や自然環境を活かした良好な住環境の維持
●歴史文化資源の保全・活用
●利便性の高い地域拠点としての機能の維持
●周辺の住環境に配慮した産業拠点の形成
●会津街道の歴史的街なみの保全
●居住環境に配慮した土地利用の推進
●五十公野地区と周辺集落地とのネットワーク強化
●集落機能維持のための取組検討
●レクリエーション施設等の活用による賑わいの創出
●地域に応じた公共交通の検討
●土砂災害対策や情報伝達体制の整備
●浸水対策（排水施設の適正管理）
新発田駅
五十公野公園
五十公野コミュニティセンター
東中学校
東小学校
山崎工業団地
松浦農村環境改善センター
旧松浦小学校
旧米倉小学校
加治川
(主)新発田瀬川線
五頭連峰県立自然公園
内の倉湖
胎内二王子県立自然公園
至 阿賀町
N
0 500 1000 2000 3000 4000 5000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点
土地利用
郊外住宅地
集落地
工業集積地
農業保全地
森林保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
鉄道・駅
自転車道
学校
公園
その他の公共施設
県立自然公園
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 5. 川東地域

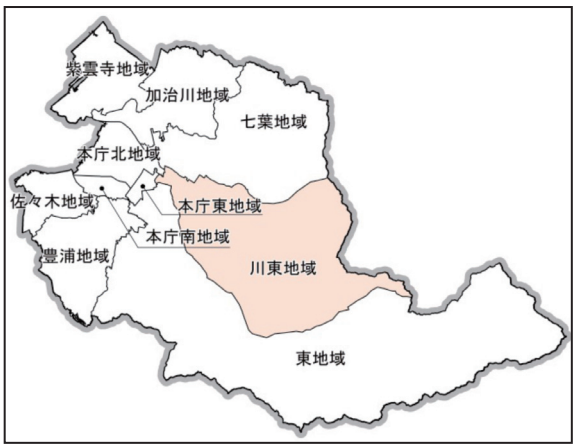
## （1）地域の概況

川東地域は、市の東部に位置しています。地域の東側は、二王子岳など飯豊山系の山々が広がっており、地域の西側は加治川と姫田川によって扇状地が形成され、これを利用した農地が広がり、周辺に集落が点在しています。

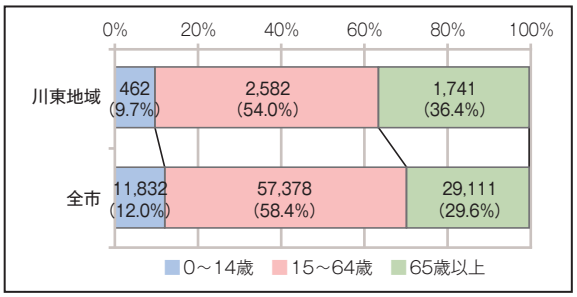
地域のほぼ中央に位置する石喜周辺には、学校や保育園、郵便局などの生活サービス＊施設が立地しています。当地域には、川東コミュニティバスが運行し、市中心部と地域内の各集落を結んでいます。

本庁東地域と接している岡田周辺は、本市の食品製造業が集積する食品工業団地があります。

アンケートでは、「豊かな自然」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度でも、全市と比較して自然環境や水辺空間の項目で特に満足度が高くなっています。一方で、工場と住宅の混在や、鉄道の利用のしやすさ、遊び場の整備などで満足度が低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

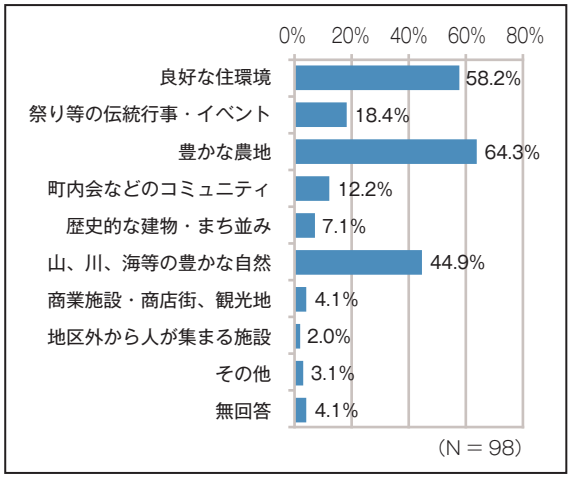
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：4,785 人
総世帯数：1,260 世帯
面　　積：約 10,680 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 川東 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 35.7% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 20.4% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 14.4% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 34.7% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 19.6% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 9.2% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 19.4% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 31.6% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 27.6% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 7.1% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 18.4% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 27.6% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 45.4% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 39.8% | 23.9% |

## （2）現状と課題

【土地利用】

○食品工業団地の充実

・食品工業団地は平成 28 年に拡張工事が行われ、新たな企業の進出が期待されています。今後は、地場産の農作物を活用した食品製造の促進など、食品工業団地を活用した地域の産業の活性化が求められています。

○集落機能の維持

・平坦部には農村集落が点在していますが、人口減少や高齢化の影響により、集落機能の維持が課題となっており、農地の荒廃も懸念されます。

【交　　通】

○市中心部とのアクセス

・県道米倉板山新発田線は、市中心部と、地域の拠点を結ぶ路線であり、安全で快適な道路の整備が求められます。

○公共交通の利便性維持

・地域内には川東コミュニティバスが運行しており、日常生活を支える重要な移動手段であることから、今後も維持・充実を図ることが必要です。

【都市施設】

○地域の生活利便性の維持

・石喜周辺には、学校や保育園、郵便局などの施設が集積しています。今後もこれらの機能を維持し、地域住民の生活利便性を維持することが必要です。

【都市環境】

○豪雨時の対策

・加治川と姫田川に挟まれた地域であり、平地部分は、豪雨時には浸水が想定される区域が広く存在しているため、浸水対策等が課題となっています。

○田園景観や山岳景観の保全

・地域内の農地は、ほ場整備 * が進められ良好な田園景観が広がっています。また地域の東部には、地域の象徴である二王子岳や、飯豊山系など山岳景観が広がっており、これらを保全するための取組が必要です。

食品工業団地

川東小学校周辺

## （3）地域づくりの方針

### ●将来の人口規模を踏まえた生活サービス＊機能の維持

・石喜周辺の小中学校やコミュニティ施設、郵便局などの生活サービス機能の集積を維持し、地域拠点として機能の維持・充実を図ります。

### ●自然環境と調和した良好な住環境の維持

・石喜周辺は、自然環境や地域に広がる農地と調和した住環境の維持を図ります。

・地域の平坦部に広く分布する農村集落は、集落機能の維持のための取組を検討します。

### ●市の産業を牽引する拠点の形成

・食品工業団地は、市の産業を特徴付ける産業拠点であり、平成 28 年には団地の拡張工事を行ったことから、周辺環境との調和に配慮しつつ、産業の更なる活性化を図ります。

### ●人口減少・高齢化に対応した移動手段の確保

・川東コミュニティバスは、今後の人口減少や高齢化を見据え、地域との協働＊により運行内容の見直しを行い、その運行を維持するとともに、交通利便性向上を図ります。

### ●田園風景や山岳景観などの自然景観の保全

・加治川、姫田川の扇状地に広がる農地の営農環境を保全します。また、背後に広がる飯豊山系と一体となった良好な田園・山岳景観として保全を図ります。

### ●豪雨などに備えた安全な都市基盤＊や防災体制づくり

・加治川や姫田川沿いに広範囲に指定されている浸水想定区域＊は、安全性の向上を図るため、豪雨時などを想定した、マイ・タイムライン＊の普及と作成を推進します。

・東部の山間地では、ハザードマップ＊、緊急告知ＦＭラジオ、新発田あんしんメールなどあらゆる情報伝達手段を活用し、計画的な体制整備を図ります。

## （4）地域づくりの方針図

●周辺環境との調和と
産業の活性化
●生活サービス＊機能の集積の維持
●農地と調和した住環境の維持
食品工業団地
(主)住吉上館線
石喜
川東小学校
川東中学校
川東コミュニティセンター
姫田川
加治川
飯豊山系
●集落機能を維持するための取組検討
●持続可能な公共交通の確保
●営農環境や田園・山岳景観の保全
●避難場所や避難ルートの検討
●情報伝達体制の整備
N
0
500
1000
2000
3000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点
土地利用
郊外住宅地
集落地
工業集積地
農業保全地
森林保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
鉄道・駅
学校
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 6. 七葉地域

## （1）地域の概況

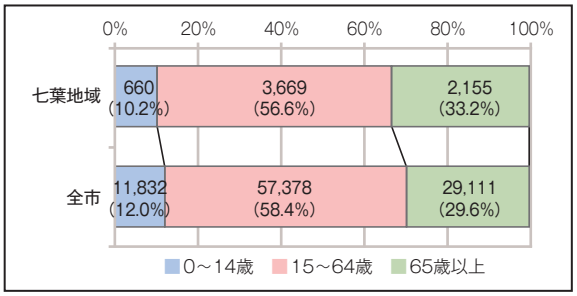
七葉地域は、市の北東部に位置し、胎内市と接しています。地域の東側には二王子岳などの飯豊山系の山々、北側は櫛形山脈と地域の多くは山地であり、全域が都市計画区域＊外となっています。

地域西側の平坦部には国道７号が南北に通り、沿道には商業地や住宅地が集積しているほか、ＪＲ羽越本線の加治駅が立地しています。市中心部に近い三日市地区周辺には、商業施設や、学校、保育園、コミュニティ施設などが立地しています。

山間部には坂井川に沿って国道 290 号が通り、その周辺に農地や集落地が分布しています。市中心部から加治や菅谷方面へ、新発田市コミュニティバスが運行しています。

市民アンケートでは、「豊かな農地」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、多くの項目で全市よりも満足度が低くなっていますが、バスの利用のしやすさや土砂災害対策等では全市と比較して満足度が高くなっています。

位置図




年齢３区分別人口割合

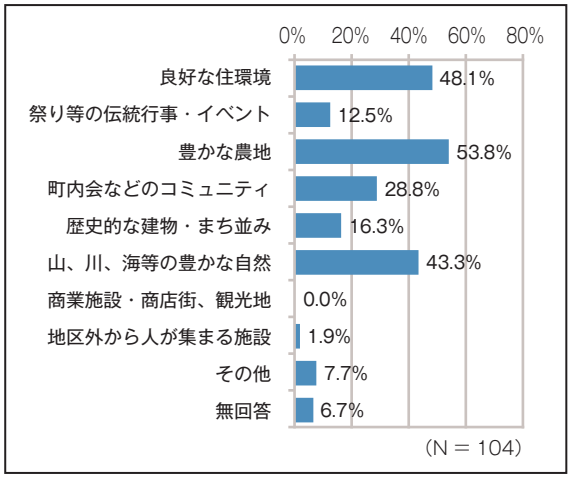
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：6,483 人
総世帯数：1,929 世帯
面　　積：約 7,250 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 七葉 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 24.8% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 32.4% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 15.2% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 19.0% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 16.2% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 9.5% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 33.3% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 15.2% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 8.6% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 9.5% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 23.8% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 25.7% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 31.4% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 31.4% | 23.9% |

## （2）現状と課題

【土地利用】

○三日市地区周辺の生活サービス＊機能の集積

・当地域は全域が都市計画区域＊外ですが、市中心部に近接する三日市地区周辺は、国道７号沿道に食料品店やホームセンターなどの商業施設が立地しています。また、上館地区では良好な宅地供給が進行しており、コミュニティセンターや保育園が新たに整備されています。

○集落機能の低下

・山間部に位置する集落では、人口減少や高齢化が進行し、集落機能の維持が課題となっています。

【交　　通】

○国道７号加治大橋の老朽化

・本地域と市中心部を結ぶ国道７号の加治大橋は、架橋から 50 年以上が経過し、老朽化が進行しています。国道７号は、広域幹線道路＊であるため、安全な道路の整備が求められます。

○コミュニティバスの維持・充実

・地域内には新発田市コミュニティバスが各集落へ運行しており、住民の日常生活を支える重要な移動手段であることから、今後も維持・充実を図る必要があります。

○国道 290 号の安全性

・国道 290 号は、胎内市や、国道 113 号を経由し山形県へ至るアクセスルートとなっており、大型車も走行することから、安全性の向上が求められます。

【都市施設】

○下水道の未整備

・商業施設や住宅の集積する三日市地区周辺では下水道が未整備であり、生活環境や河川の水質等自然環境への配慮が必要です。

【都市環境】

○土砂災害への対策

・櫛形山脈や飯豊山系の山裾部分には、土砂災害警戒区域＊が多く点在しています。周辺には集落があり、土砂災害の発生に備えた対策が求められます。

○集落と周辺の自然が一体となった景観

・菅谷地区には菅谷不動尊などを中心とした良好な集落景観が形成されています。また、坂井川周辺には農地が広がり、背後の山々と一体となり地域の特徴的な景観を形成しています。

七葉コミュニティセンター

菅谷不動尊

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性の高い地域拠点の形成

・三日市・上館地区周辺は、公共公益施設＊や商業施設などの生活サービス＊機能の集積を維持し、地域住民にとって利便性の高い地域拠点を形成します。

・菅谷地区では、菅谷不動尊を中心に、商店や郵便局等の生活サービス施設が立地しており、地域住民の生活利便性を確保するためにも、これらの機能の維持を図ります。

### ●自然環境と調和した住環境と生活環境の維持

・上館地区では、周辺の自然環境に配慮した良好な住環境を維持します。また、人口増加に応じた下水道や公園、避難場所などの整備を検討します。

・山間部に分布する集落は、集落機能を維持するための取組を検討します。

### ●高齢化や人口減少に対応した持続可能な公共交通の確保

・今後の人口減少や高齢化を見据え、新発田市コミュニティバスは、地域で立ち上げたNPOを中心として運行内容の見直しを行い、その運行を維持するとともに、バス交通の利便性の向上を図ります。

### ●市中心部とのアクセス性の強化

・国道７号の拡幅事業を推進し、市中心部とのアクセス性向上を図ります。特に、老朽化の進む加治大橋の架け替えを働きかけ、道路の安全性向上を図ります。

・国道290号は近隣都市を結ぶ道路であり、大型車も多く通行することから、適切な維持管理や交通安全対策を図ります。

### ●地域に広がる良好な農地と集落景観の保全

・加治川や坂井川流域には、稲作を中心とした良好な農地が広がっており、これらの農地と農地の中に点在する集落景観の保全を図ります。

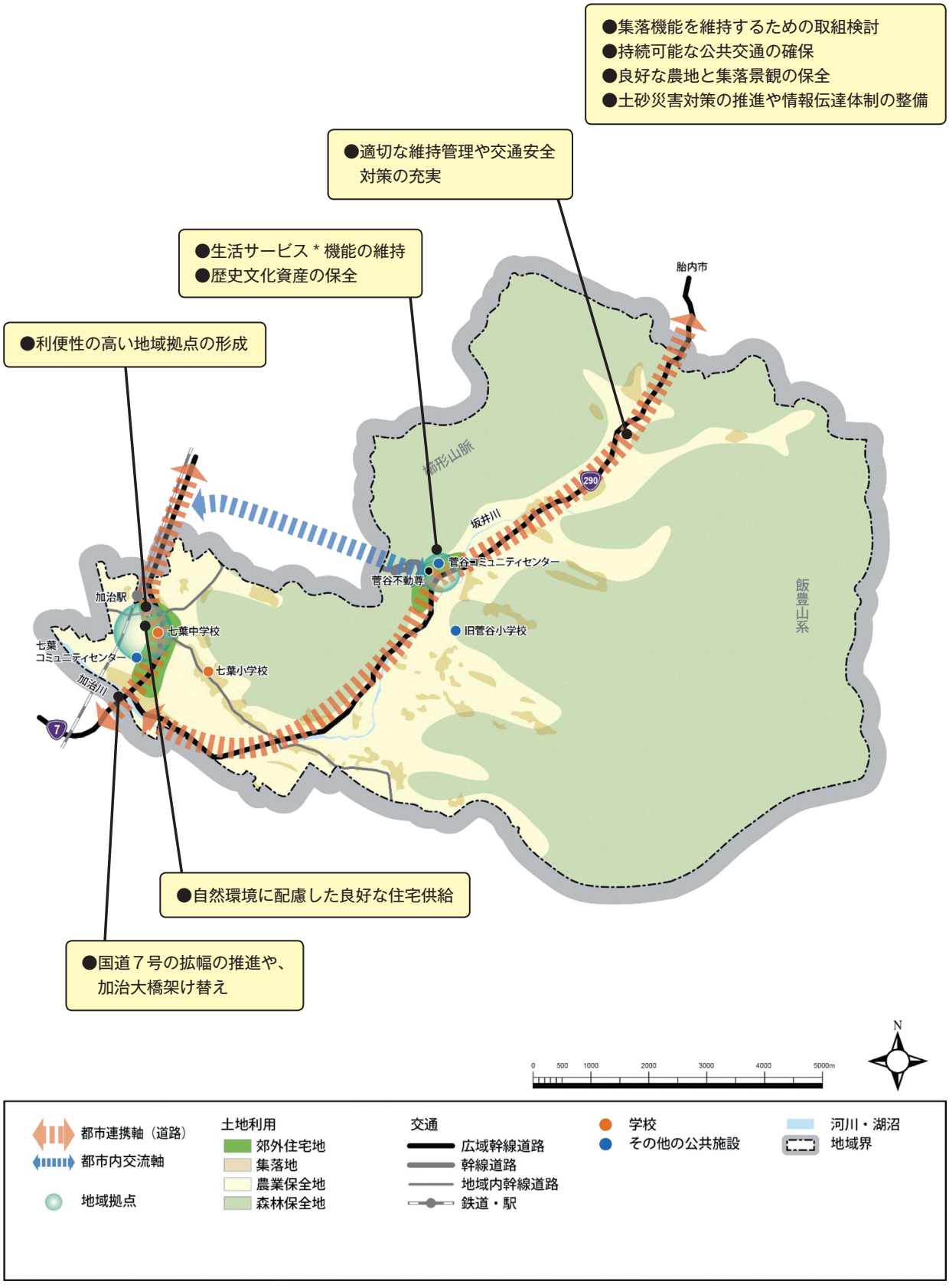
### ●菅谷地区の歴史・文化の保全・活用

・菅谷不動尊を中心とする菅谷地区は、歴史文化資源を保全し、活用することで魅力向上を図ります。

### ●土砂災害対策の推進

・土砂災害警戒区域＊が分布する櫛形山脈や飯豊山系の山裾部分では、土砂災害対策を推進し、地域住民の安全性向上を図ります。また、ハザードマップ＊、緊急告知ＦＭラジオ、新発田あんしんメールなどあらゆる情報伝達手段を活用し、計画的な体制整備を図ります。

## （4）地域づくりの方針図


●集落機能を維持するための取組検討
●持続可能な公共交通の確保
●良好な農地と集落景観の保全
●土砂災害対策の推進や情報伝達体制の整備
●適切な維持管理や交通安全対策の充実
●生活サービス＊機能の維持
●歴史文化資産の保全
●利便性の高い地域拠点の形成
●自然環境に配慮した良好な住宅供給
●国道７号の拡幅の推進や、加治大橋架け替え
胎内市
堀形山脈
坂井川
菅谷コミュニティセンター
菅谷不動尊
加治駅
七葉中学校
七葉コミュニティセンター
七葉小学校
旧菅谷小学校
加治川
飯豊山系
290
7
N
0 500 1000 2000 3000 4000 5000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
土地利用
郊外住宅地
集落地
農業保全地
森林保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
鉄道・駅
学校
その他の公共施設
河川・湖沼
地域界

# 7. 佐々木地域

## （1）地域の概況

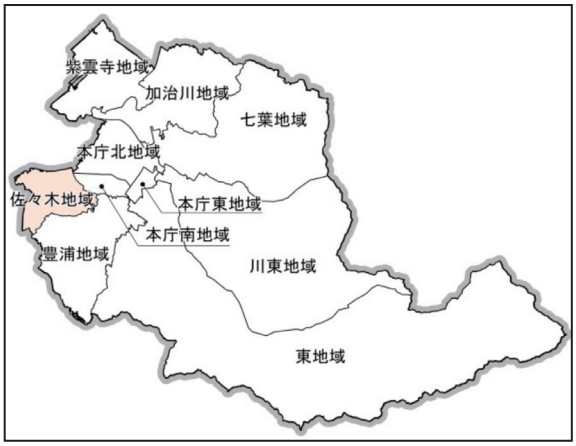
佐々木地域は、市の西部に位置し、西側は新潟市、北側は聖籠町と接しています。地域の北側にはＪＲ白新線や県道が通り、その周辺に住宅地が形成され、学校やコミュニティセンター等も立地しています。

ＪＲ白新線の南側には田園が広がっており、その中に集落が分布しています。

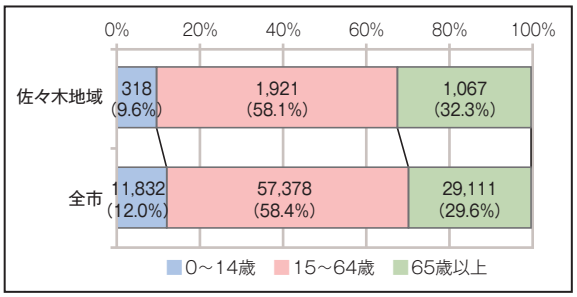
西側の市街化区域＊は工業系の用途地域＊が指定され、工業団地に大規模な工場が集積しています。

地域内には、新発田駅と新潟市方面を結ぶバスが通っています。

市民アンケートでは、「豊かな農地」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、鉄道やバスの利用のしやすさについては、全市と比較して満足度が高くなっていますが、それ以外の項目では、満足度が低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

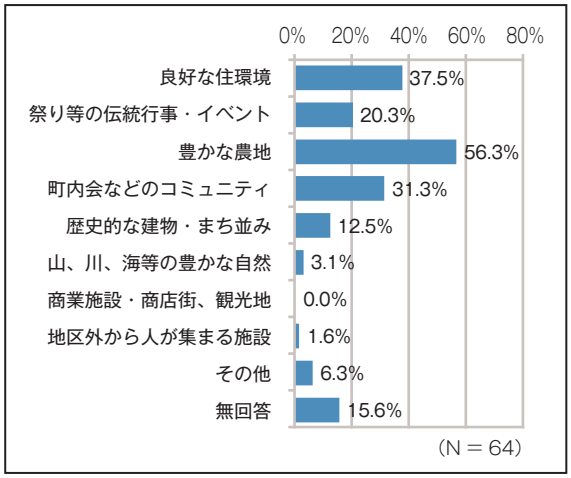
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：3,306 人
総世帯数： 977 世帯
面　　積：約 1,500 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 佐々木 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 15.6% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 21.9% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 12.5% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 18.8% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 10.9% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 30.2% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 21.9% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 9.4% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 6.3% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 7.8% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 10.9% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 4.7% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 14.1% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 12.5% | 23.9% |

## （2）現状と課題

**【土地利用】**

**○大規模な工業団地**

・地域の西部には、西部工業団地と佐々木工業団地が立地し、市の産業の拠点の一つとなっています。

**○農地の保全**

・地域には稲作を中心とした農地が広がり、古くからの農村景観も残されており、これらの保全が求められています。

**【交　　通】**

**○隣接地域等への交通利便性**

・新潟市と接する地域であり、県道新潟新発田村上線や新発田豊栄線など、近隣の市町村とを結ぶ重要な県道が結節しています。

**【都市施設】**

**○広範囲にわたる公共施設の分布**

・佐々木地域の集落は、佐々木駅周辺から県道や太田川沿いにかけて広範囲に広がっており、小中学校などの公共施設は、佐々木駅の東側に位置しています。

**○下水道の未整備**

・佐々木地域では、ほぼ全域で下水道が未整備となっており、生活環境や河川の水質等自然環境への配慮が必要です。

**【都市環境】**

**○豪雨時の対策**

・佐々木駅周辺の新発田川と太田川の間の区域は、豪雨時の浸水想定区域＊となっています。また、太田川の南側と福島潟周辺にも浸水想定区域が広がっており、浸水対策等が課題となっています。

**○自然環境の保全**

・地域内には農地が広がるとともに、河川や水路も地域の各地を通っています。特に太田川や古太田川の豊かな自然環境は多くの地域住民の誇りとなっています。

西部工業団地

古太田川親水公園

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性の高い地域拠点の形成

・佐々木駅周辺は、商業施設等の生活サービス＊機能の集積を維持し、地域住民にとって利便性の高い地域拠点を形成します。

### ●市の産業を牽引する拠点の維持

・西部工業団地や佐々木工業団地では、産業拠点としての機能の維持向上を図ります。

### ●自然環境と調和した良好な住環境の維持

・佐々木駅周辺から佐々木小学校周辺に広がる住宅地は、太田川等の自然環境や周辺の農地と調和した良好な住環境の維持を図ります。

・地域内に点在する農村集落は、集落機能を維持するための取組を検討します。

・未整備となっている下水道区域は、早期に汚水処理方針を決定し、住環境の向上を図ります。

### ●新発田市西側の玄関口としての交通利便性向上

・鉄道とバスの連携や待合スペースの充実など、公共交通の利用促進に向けた検討を行います。

・県道新発田豊栄線などの、周辺地域を結ぶ道路の適切な維持管理を推進します。

### ●地域に広がる良好な農地や集落景観の保全

・越後平野に広がる稲作を中心とした優良農地を保全するとともに、地域内に分布する田園風景や、古くからの農村集落が広がる集落景観を保全します。

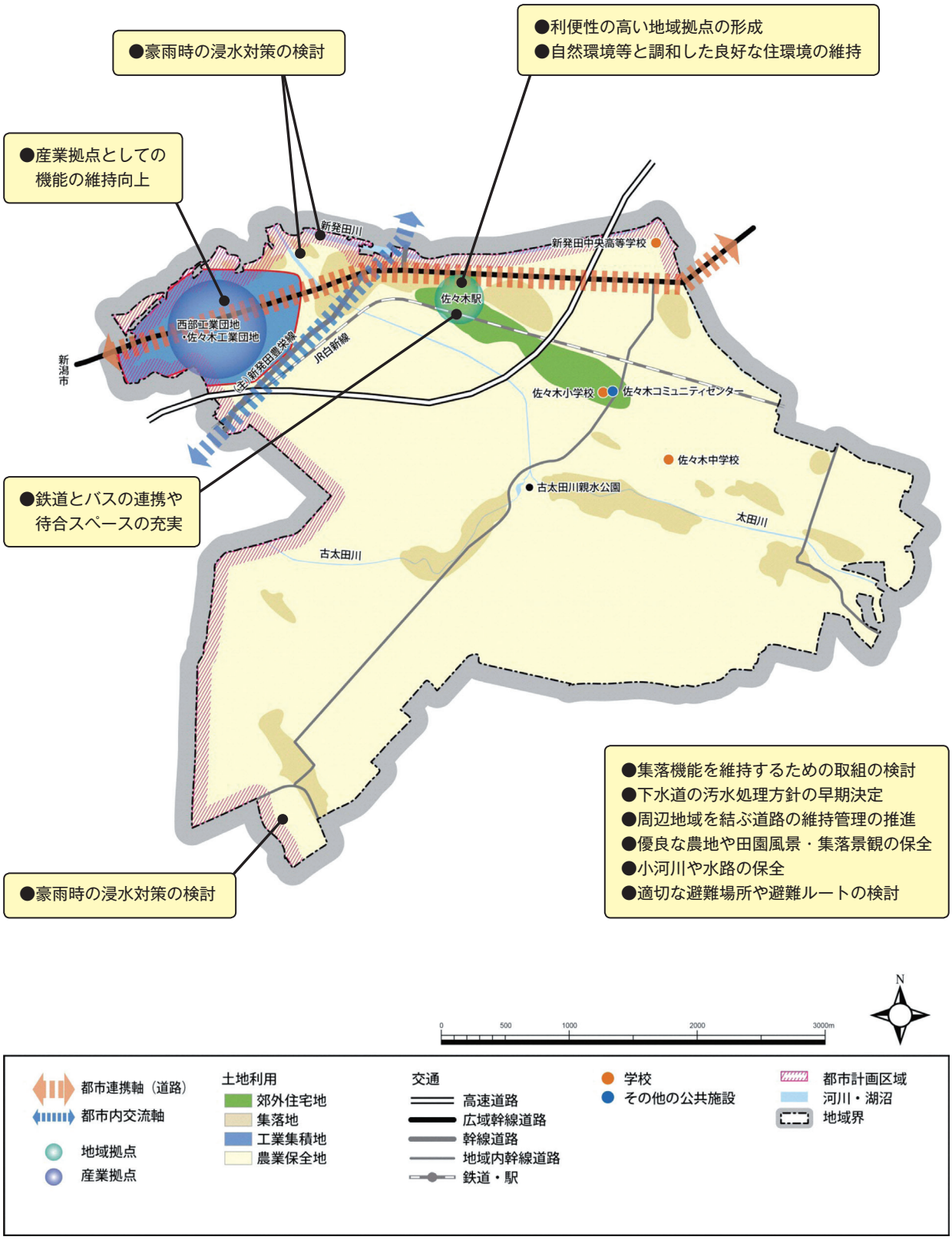
・農地の中を流れる古太田川などの小河川を保全し、良好な自然環境の創出を図ります。

### ●豪雨等に備えた安全対策の推進

・太田川の河川改修と福島潟改修を促進し、豪雨時の浸水対策を図ります。

・災害発生時でも安全な避難ができるよう、マイ・タイムライン＊の普及と作成を推進します。

## （4）地域づくりの方針図


●豪雨時の浸水対策の検討
●利便性の高い地域拠点の形成
●自然環境等と調和した良好な住環境の維持
●産業拠点としての機能の維持向上
●鉄道とバスの連携や待合スペースの充実
●豪雨時の浸水対策の検討
●集落機能を維持するための取組の検討
●下水道の汚水処理方針の早期決定
●周辺地域を結ぶ道路の維持管理の推進
●優良な農地や田園風景・集落景観の保全
●小河川や水路の保全
●適切な避難場所や避難ルートの検討
新発田川
新発田中央高等学校
佐々木駅
西部工業団地
・佐々木工業団地
主)新発田豊栄線
JR白新線
新潟市
佐々木小学校
佐々木コミュニティセンター
佐々木中学校
古太田川親水公園
太田川
古太田川
N
0
500
1000
2000
3000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点
土地利用
郊外住宅地
集落地
工業集積地
農業保全地
交通
高速道路
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
鉄道・駅
学校
その他の公共施設
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 8. 豊浦地域

## （1）地域の概況

豊浦地域は、市の南西部に位置し、地域の中央には、国道 460 号とＪＲ羽越本線が南北に通っています。

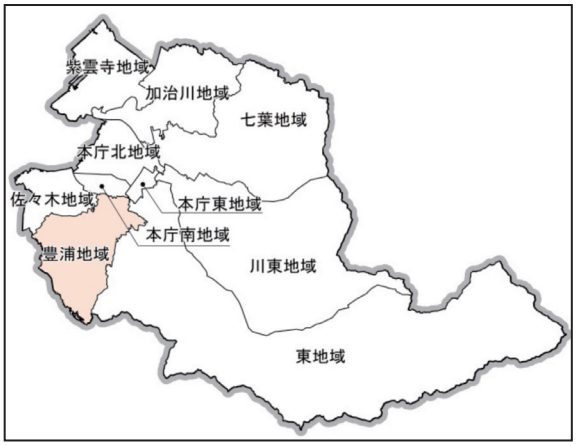
北側の中浦駅周辺に、住宅地や支所、学校、公民館、スポーツ施設などが集積しています。

東側には真木山、本田山などの里山＊があり、月岡温泉には温泉観光施設を中心とした市街地が形成されています。

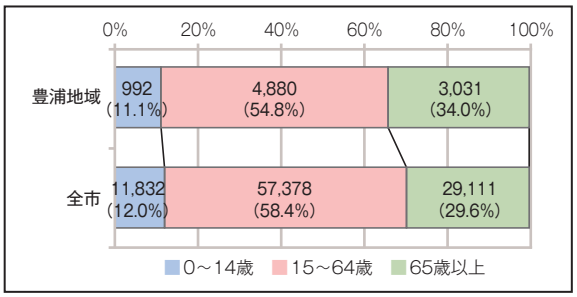
地域南側の天王地区には、月岡駅が立地し、住宅地と工業地が形成されています。

市中心部と地域内の各集落を結ぶコミュニティバスや乗合タクシーが運行しており、観光地である月岡温泉と豊栄駅の間には、シャトルバスが運行しています。

市民アンケートでは、「豊かな農地」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、ほとんどの項目で全市よりも満足度が低く、特に鉄道やバスの利用のしやすさが低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

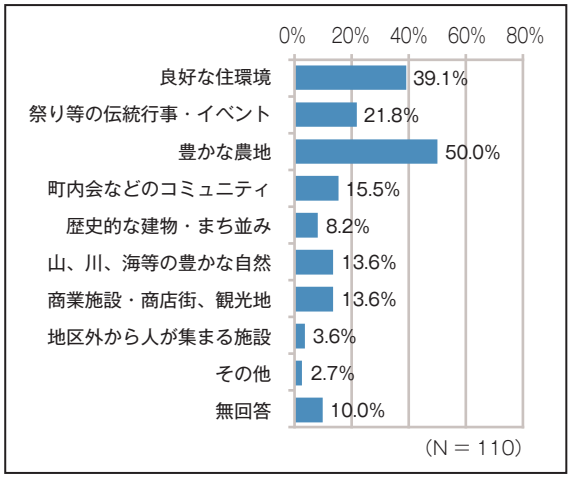
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：8,903 人
総世帯数：2,669 世帯
面　　積：約 3,570 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 豊浦 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 20.9% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 31.8% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 16.4% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 16.4% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 10.0% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 3.6% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 1.8% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 17.3% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 15.5% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 10.9% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 17.3% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 20.9% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 26.4% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 21.8% | 23.9% |

## （2）現状と課題

### 【土地利用】

**○中浦駅周辺などの住宅地形成**

・市街化区域＊に指定された天王や月岡温泉周辺に住宅地や商業地が形成されています。また、地域の拠点となる中浦駅周辺においては、支所などの施設立地とともに、まとまった住宅地が形成されています。

**○集落機能の低下**

・平坦部には農村集落が点在していますが、人口減少や高齢化の影響により、集落機能の維持が課題となっています。また、集落機能の低下や人口減少により、農地の荒廃も懸念されます。

### 【交　　通】

**○道路整備によるアクセス向上**

・新発田南バイパスの整備により、市中心部や西新発田方面へのアクセス性が向上しています。また、［都］五十公野公園荒町線や五十公野バイパスの開通により、一層の利便性向上が期待されます。

・豊浦工業団地は、新発田南バイパスの延伸によりアクセスのしやすい利便性の高い工業団地となっています。

### 【都市施設】

**○中浦駅周辺の公共施設の集積**

・中浦駅周辺には、真木山中央公園の野球場や多目的グラウンド、豊浦体育センターなどスポーツ施設が集積しています。また、支所や公民館、学校等の公共施設も隣接しています。

### 【都市環境】

**○土砂災害への対策**

・真木山や本田山の周辺には、土砂災害警戒区域＊が指定されています。地域内には月岡断層帯が分布し、周辺には住宅も立地しており、安全性向上が求められます。

**○豪雨時の対策**

・太田川の流域の一部は、豪雨時の浸水想定区域＊となっており、対策等が課題となっています。

**○温泉街の魅力向上**

・月岡温泉は、年間約 60 万人が訪れる県内有数の観光地であり、観光拠点としてさらなる魅力づくりが求められます。

乙次周辺の住宅地

月岡温泉の商業地

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性の高い地域拠点の形成

・中浦地区は、公共施設や商店等の生活サービス＊機能の集積を維持し、地域住民にとって利便性の高い地域拠点を形成します。

### ●魅力的な観光拠点の形成

・月岡温泉は、道路の美装化やファサード整備＊等により、温泉街の雰囲気と調和した景観形成を促進し、地域の魅力向上を図ります。

・外国人観光客の増加に向け、広域圏による周遊ルートの検討や、外国人観光客の受け入れ環境の整備を図ります。

### ●地域住民や観光客にとって利用しやすい公共交通網等の形成

・市民や月岡温泉に訪れる観光客が利用しやすい公共交通サービスや二次交通＊サービス等を検討し、地域の魅力向上を図ります。

### ●自然環境と調和した良好な住環境の維持

・中浦駅や月岡駅、月岡温泉の周辺は、農地や自然環境と調和した良好な住環境を維持します。

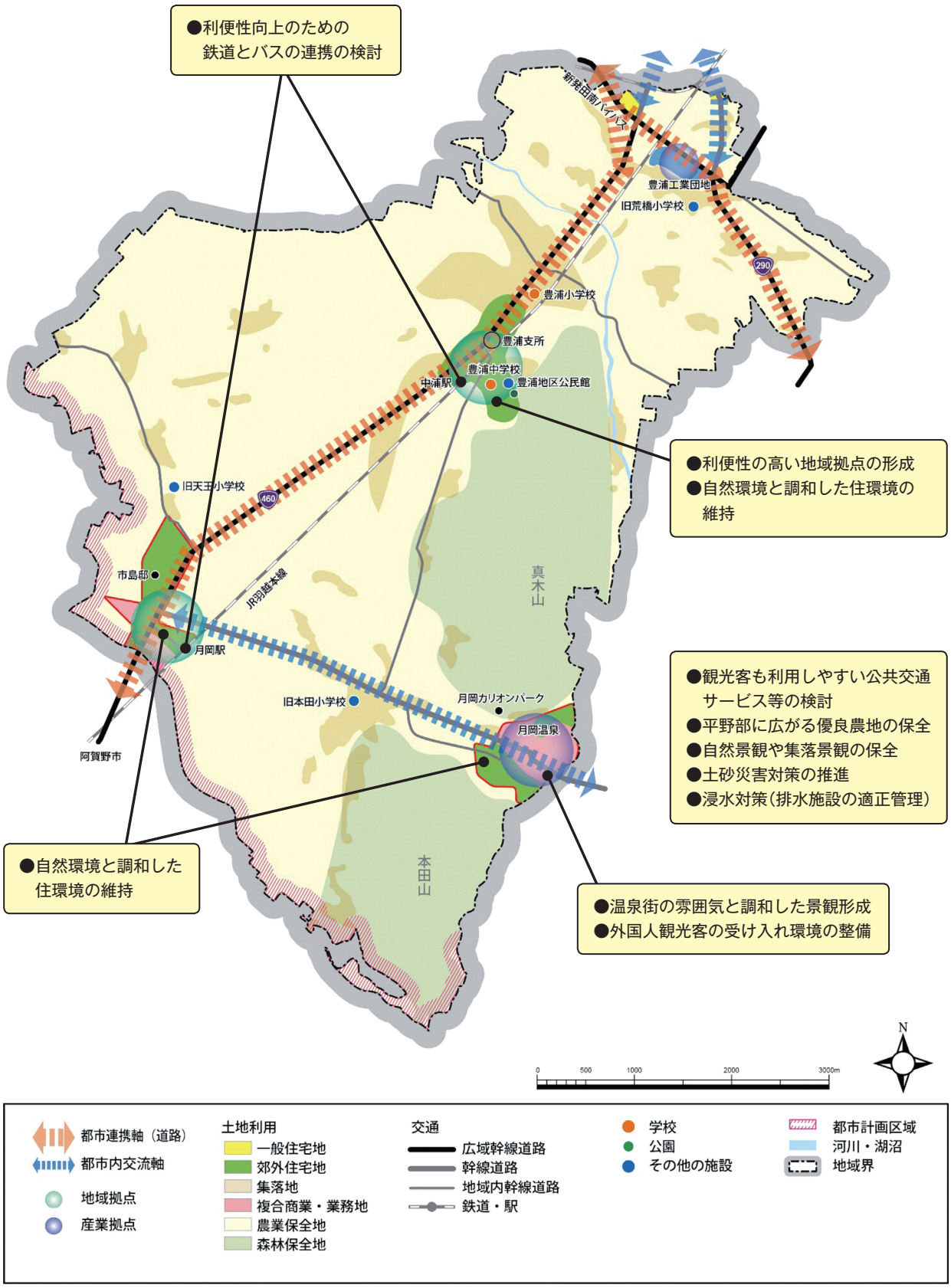
・地域内に点在する農村集落は、機能を維持するための取組を検討し、平野部に広がる優良農地の保全を図ります。

### ●土砂災害や豪雨などに備えた安全な都市基盤＊や防災体制づくり

・本田山や真木山などの丘陵地の山裾には土砂災害警戒区域＊が分布しています。周辺には住宅が立地していることから、避難や情報伝達体制の確立など土砂災害対策を推進し、地域住民の安全性の向上を図ります。

・豪雨時の浸水想定区域＊、被害の抑制と解消に向け、排水施設を適正に維持管理し、安全性確保を図ります。

## （4）地域づくりの方針図


●利便性向上のための
鉄道とバスの連携の検討
●利便性の高い地域拠点の形成
●自然環境と調和した住環境の
維持
●観光客も利用しやすい公共交通
サービス等の検討
●平野部に広がる優良農地の保全
●自然景観や集落景観の保全
●土砂災害対策の推進
●浸水対策（排水施設の適正管理）
●自然環境と調和した
住環境の維持
●温泉街の雰囲気と調和した景観形成
●外国人観光客の受け入れ環境の整備
新発田南バイパス
豊浦工業団地
旧荒橋小学校
290
豊浦小学校
豊浦支所
豊浦中学校
豊浦地区公民館
中浦駅
旧天王小学校
460
市島邸
JR羽越本線
月岡駅
真木山
旧本田小学校
月岡カリオンパーク
月岡温泉
阿賀野市
本田山
N
0
500
1000
2000
3000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点
土地利用
一般住宅地
郊外住宅地
集落地
複合商業・業務地
農業保全地
森林保全地
交通
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
鉄道・駅
学校
公園
その他の施設
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 9. 紫雲寺地域

## （1）地域の概況

紫雲寺地域は、市の北部に位置し、日本海に面しており、西側は聖籠町、東側は胎内市に接しています。

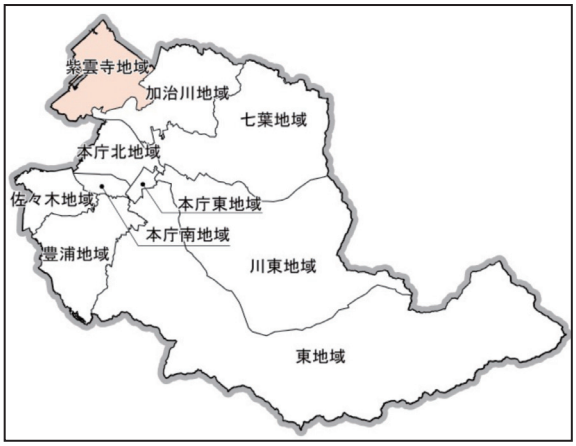
地域には加治川と落堀川が流れ、日本海にそそいでいます。

海岸に沿って国道 113 号が通り、地域の中心部の県道新潟新発田村上線沿道には集落が形成されています。また、その２つの道路を挟んで、田畑や松林が分布しています。

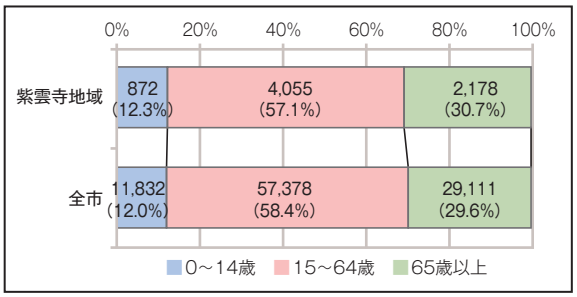
当地域の北西側は都市計画区域＊であり、住居系の用途地域＊が指定されている藤塚浜では、古くからの住宅地の他、土地区画整理事業＊により住宅地が形成されています。また、日本海に面して、県立紫雲寺記念公園が整備されています。

県道が交差する稲荷岡周辺では古くからの住宅地が形成され、支所や学校、商店が立地しています。

市民アンケートでは、「山、川、海等の豊かな自然」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度でも、全市と比較して自然環境や公園・遊び場の整備について満足度が高くなっています。一方で交通体系や防災対策などでは全市よりも満足度が低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

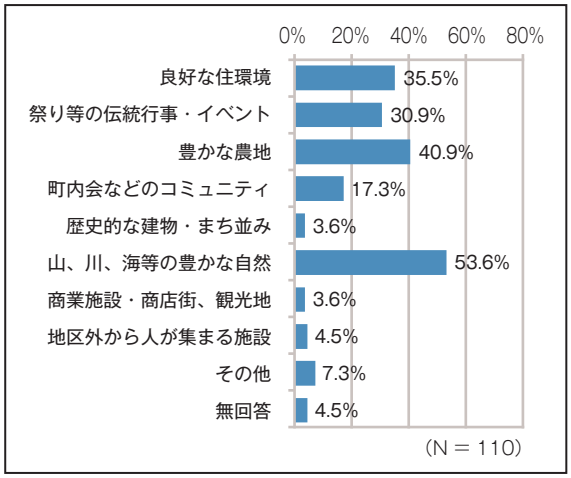
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：7,105 人
総世帯数：2,042 世帯
面　　積：約 2,049 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 紫雲寺 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 32.7% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 36.4% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 14.5% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 23.6% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 11.8% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 2.7% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 5.5% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 21.8% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 33.6% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 24.5% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 15.5% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 18.2% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 34.5% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 24.8% | 23.9% |

## （2）現状と課題

### 【土地利用】

**○市街化区域＊内の未利用地**

・藤塚浜地区には昭和 61 年より土地区画整理事業＊が施行され、住宅地が形成されていますが、現在でも未利用地が点在しています。

**○集落機能の低下**

・県道新潟新発田村上線より東側には、農地が広がり農村集落が分布していますが、人口減少や高齢化の影響により、集落機能の維持が課題となっています。また、農地の荒廃も懸念されます。

### 【交　　通】

**○県道新潟新発田村上線の安全性向上**

・県道新潟新発田村上線の沿道には住宅が立ち並んでいますが、交通量が多く歩行空間が十分でないなど、歩行者や自転車への安全性が課題となっています。

**○公共交通の利便性向上**

・紫雲寺地区と市中心部の間はバスが運行していますが、バス停までの距離が遠い集落が存在し、運行本数が少ないなど、地域住民の移動手段の確保が課題となっています。

### 【都市施設】

**○公園等の整備や維持管理**

・県立紫雲寺記念公園は、海水浴場やキャンプ場、温泉施設、体育館など、多様な機能を有しており、周辺市町村からの集客も多く見込める拠点となっています。また、隣接地には松塚漁港が整備され、さかなまつりなどのイベントが開催されています。

・大規模な県立紫雲寺記念公園が整備されている一方で、藤塚浜地区には、未整備の都市計画公園＊があり、身近な公園の整備が求められています。

### 【都市環境】

**○災害への対策**

・県道新潟新発田村上線の東側には、浸水想定区域＊が広がっています。また、紫雲寺地域は、日本海に面しているため、津波による浸水の可能性があり、対策が求められています。

**○加治川の河川景観**

・加治川沿いには桜堤が整備されており、観光資源等として有効な活用が求められます。

稲荷岡周辺

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性の高い地域拠点の形成

・稲荷岡周辺の公共公益施設＊の集積を維持し、地域住民の日常生活の利便を図ります。

・稲荷岡や藤塚浜は、公共交通など交通網の充実により市中心部等へのアクセスを強化し、利便性の高い地域拠点を形成します。

### ●自然環境と調和した住環境の維持

・藤塚浜地区は、土地区画整理事業＊によって整備された良好な住環境を維持し、住宅地としての土地利用を促進します。また、未整備となっている都市計画公園＊については、周辺の環境を踏まえ整備を検討します。

・稲荷岡及び県道新潟新発田村上線沿道の住宅地では、周辺に広がる農地と調和した住環境を維持します。

・地域内に点在する農村集落は、集落機能を維持するための取組を検討し、農村集落や景観の維持を図ります。

### ●人口減少と高齢化に対応した移動手段の確保

・日常生活を支える移動手段を確保するため、住民との協働＊によって地域に応じた公共交通の検討を進め、地域と市中心部とを結ぶネットワークの確保を図ります。

### ●優れた自然環境や既存施設の活用による賑わい創出

・日本海の海岸線の風景や海岸沿いに分布する松林は、地域の特徴として保全し、優れた自然景観として活用を図ります。

・県立紫雲寺記念公園は、レクリエーションの拠点として、適切な維持管理や活用を図ります。

### ●豪雨災害や津波等の安全対策の推進

・豪雨時の浸水想定区域＊、被害の抑制と解消に向け、排水施設を適正に維持管理し、安全性確保を図ります。

・津波災害に備え、避難や情報伝達体制の確立など津波災害対策を推進します。

## （4）地域づくりの方針図

●区画整理によって整備された良好な住環境の維持と未整備の都市公園の整備検討
●海岸線の風景や松林の保全
●利便性の高い地域拠点の形成
●公共公益施設＊の集積を維持
●利便性の高い地域拠点の形成
●農地と調和した住環境の維持
●レクリエーション拠点として適切な維持管理や活用
●集落機能を維持するための取組検討
●持続可能な公共交通の検討
●住民の防災意識の醸成
●津波被害想定の見直しによる避難ルート等の検討や防災意識の醸成
日本海
胎内市
聖籠町
藤塚浜工業団地
藤塚山公園
藤塚小学校
紫雲寺記念公園
紫雲寺支所
稲荷岡
紫雲寺中学校
紫雲寺小学校
紫雲寺地区公民館
米子小学校
落堀川
加治川
(主)新発田紫雲寺線
(主)新潟新発田村上線
113
N
0
500
1000
2000
3000m
都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点
土地利用
郊外住宅地
集落地
工業集積地
農業保全地
森林保全地
交通
高速道路
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
主要生活道路
鉄道・駅
学校
公園
その他の公共施設
都市計画区域
河川・湖沼
地域界

# 10. 加治川地域

## （１）地域の概況

加治川地域は、市の北部に位置し、北側は胎内市に接しています。地域の中央には国道７号とＪＲ羽越本線が南北に通り、その沿道周辺に集落が点在しています。

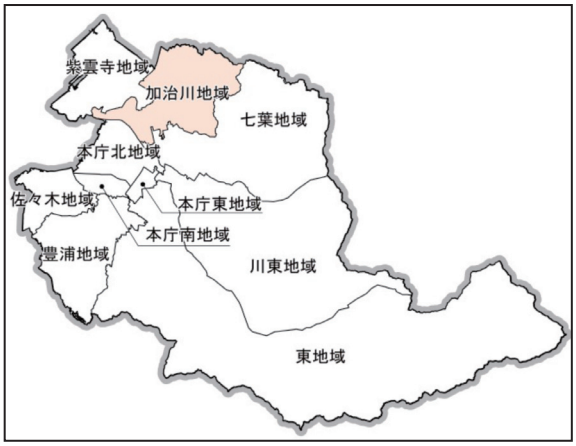
全域が都市計画区域＊外で、西側には農地が広がり、東側には、櫛形山脈が広がっています。

櫛形山脈の大峰山は、天然記念物である橡平桜樹林や桜公園があり、桜の名所となっています。また国道７号沿道には、道の駅加治川が立地しています。

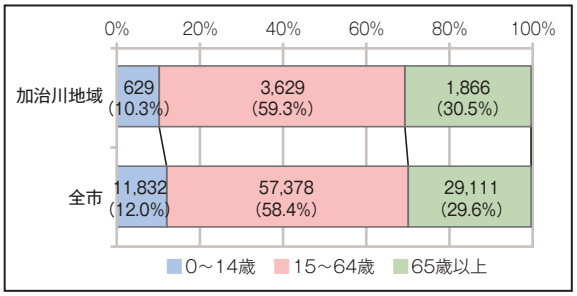
地域の北側の金塚地区は胎内市街地に近接しており、ＪＲ金塚駅やコミュニティ施設が立地し、住宅が集積しています。

加治川支所周辺には、小中学校や公民館などの公共施設が集積しています。

市民アンケートでは、「良好な住環境」を地域の特性や誇りと感じている住民が多くなっています。現状の満足度では、全市と比較して、住環境や自然環境、通行のしやすさについての項目で満足度が高く、子どもの遊び場の整備やバスの利用のしやすさが全市と比較して特に満足度が低くなっています。




位置図




年齢３区分別人口割合

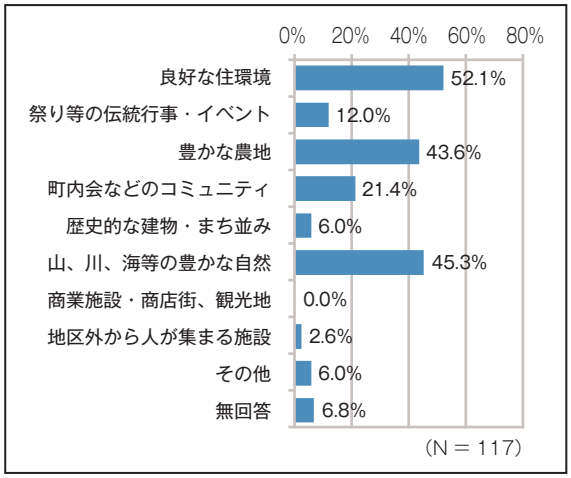
（資料：H 27 国勢調査）

**地域の基礎データ**

総 人 口：6,123 人
総世帯数：1,832 世帯
面　　積：約 3,650 ha

**【アンケート結果（H27.12）※一部抜粋】**

Q　お住まいの地区で「特性」や「誇りに感じているもの」




Q．お住まいの地区での「現状での満足度」

■全市より満足度の高いもの、■全市より満足度の低いもの

| 分野 | 項目 | 加治川 | 全市 |
|---|---|---|---|
| 土地利用 | 建物の密集具合や老朽化の状況 | 32.2% | 29.3% |
| | 工場と住宅の混在の状況 | 40.2% | 31.3% |
| | 空地や空家の状況 | 25.4% | 17.5% |
| 交通体系 | 通行のしやすさ（自動車・バイク） | 26.3% | 24.7% |
| | 通行のしやすさ（自転車） | 22.9% | 19.1% |
| | 鉄道の利用のしやすさ | 28.2% | 23.0% |
| | バスの利用のしやすさ | 4.2% | 17.0% |
| 都市施設 | 海や河川・水路など水辺空間 | 28.0% | 18.5% |
| | スポーツレクリエーション施設・公園整備 | 21.2% | 27.9% |
| | 身近にある子供の遊び場の整備 | 7.6% | 18.6% |
| 都市環境 | 土砂災害、風水害対策 | 16.1% | 18.6% |
| | 避難場所・避難路の分かりやすさ | 24.6% | 26.7% |
| | 森林や河川・海岸など自然環境 | 35.6% | 29.9% |
| | 寺社の境内地など鎮守の森 | 23.7% | 23.9% |

## （２）現状と課題

### 【土地利用】

#### ○住宅地の形成と未利用地

・金塚地区は、胎内市の市街地や日本海沿岸東北自動車道の中条 IC へのアクセスが良く、金塚駅の東側には街区の整った住宅地が形成されています。しかし、住宅地内には未利用地も点在しています。

#### ○集落機能の低下

・地域の平野部には、農地が広がり農村集落が分布していますが、人口減少や高齢化の影響により、集落機能の維持が課題となっており、農地の荒廃も懸念されます。

#### ○自然公園

・地域の東側は櫛形山脈の山林が広がり、一部は県立自然公園に指定されています。

### 【交　　通】

#### ○地域内及び周辺地域を結ぶ道路網

・国道７号は地域の骨格となる道路であり、市中心部と胎内市を結ぶほか、災害時には第１次緊急輸送道路＊に位置付けられています。

・県道紫雲寺菅谷線や広域農道は、集落間を結ぶ重要な道路であり、地域の幹線道路＊として利用されています。

#### ○公共交通の利便性確保

・地域内にはＪＲ羽越本線が通っており、金塚駅と加治駅が利用されています。一方で、バスは一部地域のみの運行となっており、駅から離れた集落住民の移動手段の確保が課題となっています。

### 【都市施設】

#### ○支所を中心とした施設の集積

・加治川支所を中心に、学校やスポーツ施設が周辺に集積しており、地域の中心として機能の維持が求められます。

### 【都市環境】

#### ○土砂災害や水害への対策

・櫛形山脈の山裾部分に土砂災害警戒区域＊が点在しており、地域内には櫛形断層帯も分布しています。

・加治川周辺には、豪雨時の浸水想定区域＊が広がっており、水害の恐れがあることから対策が求められています。

#### ○多様な自然資源

・地域の東部には櫛形山脈があり、平野部には農地が広がるなど、良好な自然景観が形成されています。

・加治川沿いには桜堤が整備されており、観光資源等として有効な活用が求められます。

金塚駅前

## （3）地域づくりの方針

### ●利便性の高い地域拠点の形成

・加治川支所周辺は、公共公益施設＊を集積し、地域住民の日常生活の利便性を維持します。

・加治川支所周辺は、国道７号や主要な県道の適切な維持管理や機能の充実を図り、利便性の高い地域拠点を形成します。

・金塚地区は、鉄道駅や診療所、商店などを維持し、住民が日常的に利用する機能を有する地域拠点を形成します。

### ●自然環境と調和した住環境の維持

・櫛形山脈の自然や、地域に広がる農地と調和した住環境の維持を図ります。

・平野部に広がる優良な農地を保全するとともに、優れた集落景観の保全・活用を図ります。また、集落機能の維持のための取組を検討します。

### ●人口減少・高齢化に対応した移動手段の確保

・日常生活を支える移動手段を確保するため、住民との協働＊によって地域に応じた公共交通の検討を進め、地域と市中心部とを結ぶネットワークの確保を図ります。

### ●優れた地域資源を活用した賑わいの創出

・櫛形山脈や天然記念物である大峰山の橡平桜樹林などの地域内にある優れた自然環境を活用し、地域の賑わい創出を図ります。

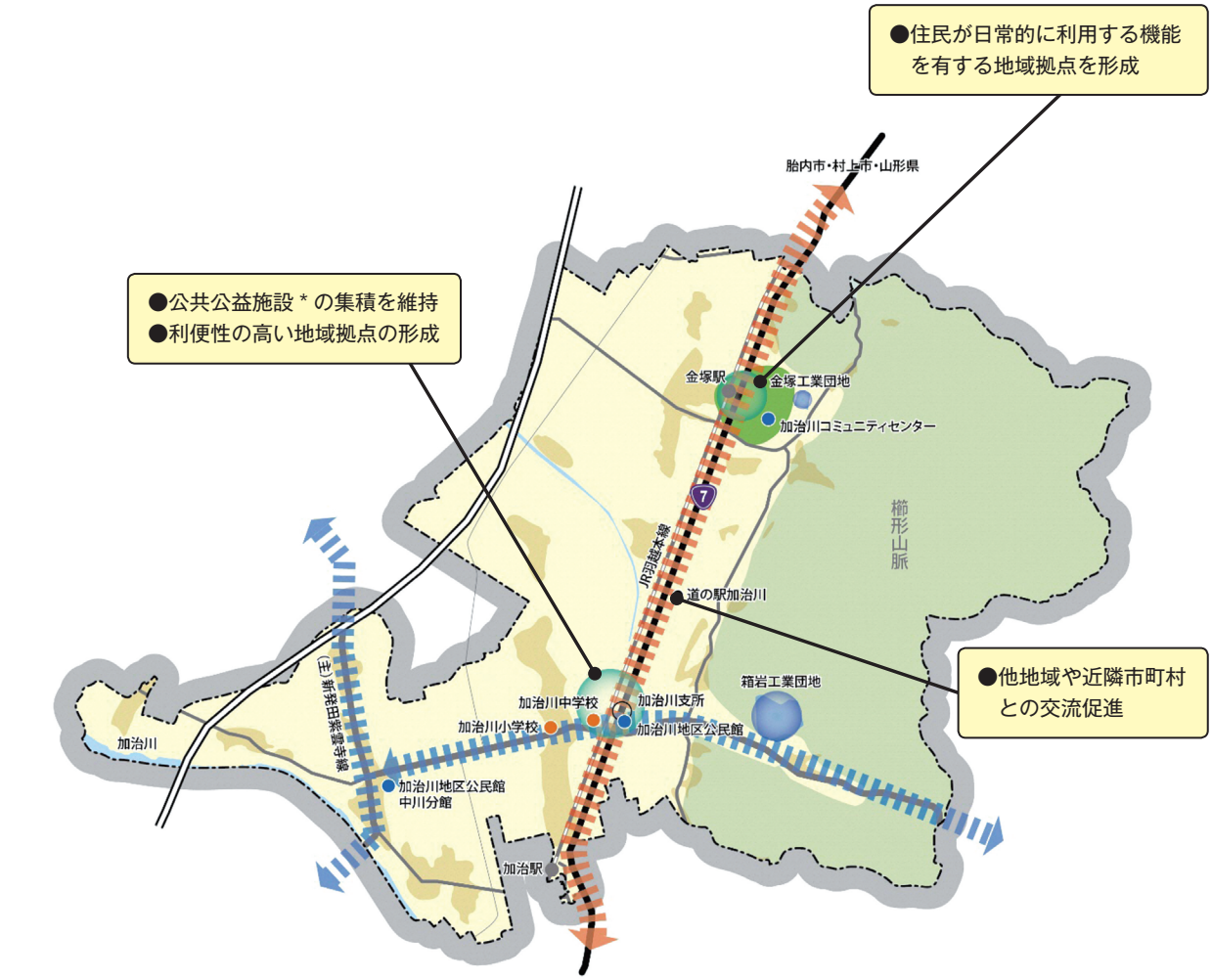
・道の駅加治川は、他地域や近隣市町村など、市街地との交流を促進する施設として活用を図ります。

### ●土砂災害や豪雨などに備えた安全な都市基盤＊や防災体制づくり

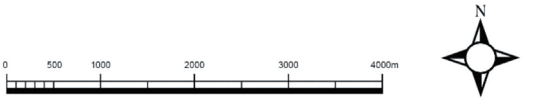
・櫛形山脈の山裾は、土砂災害対策を推進し安全性の向上を図ります。また、ハザードマップ＊、緊急告知ＦＭラジオ、新発田あんしんメールなどあらゆる情報伝達手段を活用し、計画的な体制整備を図ります。

・加治川をはじめとする河川では、堤防の適切な維持管理などの水害対策を推進します。

## （4）地域づくりの方針図




●農地と調和した住環境の維持
●優良な農地と集落景観の保全
●集落機能を維持するための取組検討
●持続可能な公共交通の検討
●公共交通の利用促進
●優れた自然環境の活用
●土砂災害対策の推進や情報伝達体制の整備
●堤防の適切な維持管理




都市連携軸（道路）
都市内交流軸
地域拠点
産業拠点

土地利用
郊外住宅地
集落地
農業保全地
森林保全地

交通
高速道路
広域幹線道路
幹線道路
地域内幹線道路
主要生活道路
鉄道・駅

学校
その他の公共施設

河川・湖沼
地域界